



始



小野塚博士述

(非賣品)

政治學史

完

大正十一年度東大講義

14-706



小野塚博士述

學史

完



大正十一年度東大講義

政治學史 目次

緒論	一
第一章 古代	一
第二章 希臘ニ於ケル政治研究ノ發達ノ原由	九
第三章 希臘ニ於ケル政治研究發達ノ順序	一〇
第四章 Socrates	一一
第五章 Plato	一三
第六章 Aristototes	二〇
第七章 Socratesノ流ヲ次メル傍系(主線派)	二六
第八章 Polybius (184. B.C. -)	二七
第九章 希臘ノ政治學說ノ一般的特点	二八
第十章 羅馬人ト希臘人	二九



第十一章	羅馬ノ政治法律ノ根本思想	二九
第十三章	希臘思想ノ羅馬輸入 IIC-VIC.	三〇
第十四章	羅馬法學家ノ政治思想 IC-VIC. 教父ノ政治思想	三一
第二編 中世		三三
第一章	第九世紀ニ於ケル政治學說	三五
第二章	第十一世紀乃至十五世紀ニ於ケル政治學說	三七
✓ 第一章	Machiavelli	四五
第二章	Mr. Ruther	五〇
第三章	John Bodin	五二
第四章	J. Milton Acropolitica of civil power	五二
第五章	J. Hobbes	五六
第六章	R. Filmer	五九

第七章	J. Locke Two Treatise on government	六一
第八章	Boling-Broke (1770-1791)	六三
第九章	Boanet (1721-)	六五
第十章	Montesquieu	六六
第十一章	J. Rousseau	六九
第十二章	Blackstone	七三
第十三章	Burke	七四
第十四章	佛革命前後ノ政ノ思想	七六
第十五章	國家有機體說	八七
第十六章	J. Bentham & etc	九〇
第十七章	社會主義運動	九五

政治學史 目次終リ

行々錯誤杜撰極多、極く在り講者、意ヲ得ハズカハ、時時ナルノリ
 ヲ設置スルハ、帝國圖書館、配屬ナリ、ミルトンニ能カレトモ、概言ハ、
 ナル邊、採テ、要ス、同感

同感 of the author

政治學史

小野塚博士述

緒論



第一、政治學史、重要

I 一般の理由

1. 政治的行為、説明
2. 政治思想の発達、説明
3. 政治の形態、指染
4. 政治上に於ける過度、希望ト失望トヲ避ク

II 特殊の理由

1. 政治學の発達、過程
 2. 政治學の、正火の地位
- 一般の理由、政治學史、限リ、タモ、ヲナイ、他、亦、向、ニ、モ、存、ス、

特殊の理由ハ、政治本火ニ着レタモ、アア、行為が必要ナリシマ

- I
- 1. 何故ニ政治上ニ行ハレタヤ
- 2. 精神的ノ発達
- 3. 今後ノ政治史ヲ考ヘラレ又政治家ヲ指導スルトモ

- II
- 1. 幼稚ナルハ、俗流ニ如何ナリレカラ尋ネ以此ノ建設ニ努力スベシ、亦達セル等向ニ比シテ過去ヲ研ムコトノ必要アリ

- 2. 自然科亦ニ於ケルアル時代ノ誤レテ亦誤ハ後世ニ影響スルコト少シ、政治本ニ於テハ誤レル事誠ハ後ニ度クコト多シ

- 3. 即チ專制政治ハ立憲政治建設ニ預テカマツト見ルコト可ナリ、而シテ封建ヨリ直チニ立憲ニ移ルコトヲ得ス

- 附 自然科本同ノ在史ハ割合ニ漸進的ナリ、誤レテ説ニヨリ進行スルコト少シ、社会同ハ有力ナル誤レル説ノタメニ

進路ニ退歩ヲ示セルコト也 James Bryce, 如キハ

Aristotles, Politic 最も可ナリト云フヲ居ル、余ハ Aristotles, 今日出テ、故ノ災患、今日ニ進スル様ニ行ハ、丁ナシ也 Greek 時代ノ故ノ思想ハ、今日ニ於テ具體的ニ終スヘキニテラスト信ス、即チ彼ニ進歩ヲナシテ居ル今日ニハ古代ノ制度ヲ殊ルコトハ云ハナイト云フ、大体ニ於テハ政治本火ニ進歩進、歴史ヲ了レ

第二 政治本火ノ意義

意義ニ於テハ政治本火ト、下ノ六ツノ種類ヲ分ハ、

- 1. 概論ノ政治本火
- 2. 国家本火
- 3. 政治學說本火
- 4. 政治大學本火

政治思想史
政治学者史

第三 政治学史、任務

I 説載時

1. 本説、記述

2. 一、本説、其以前、諸本説、其当時、所代表者ニ其ノ所

3. 其、本説ノ特色

II 批評的

其、本説、政治学史上ノ地位ヲ批評ス

第四 政治学史上政治学説ト、其係

I 本義

本義ニ於テ相互的響歎アリ、事實ノ本説ニ付テ、*influence*ニ付テ

ハ思想ノ限界ト外界ノ事情トヲ考ヘ、マナリ又本説ノ事實ニ付テハ
少歎響ニ付テハ其ノ程度ノ遠近及ヒ其ノ程度等ヲ願ミレハキナリ
此ノ程度ニ干シテハ極マ、説アリ

政治学史上、中ニ政治学説ハ全部入レカ政治学説ヲズクトレハ大
多数ノ政治学史上如何ナル程度ニ付テハマカ、然レモ、*influence*ヲ
ツモノ、ミラトラン

思想ノ限界ト本説ノ思想ノ限界ナリ、故ニソノ限界ノ範圍ニ
於テ本説ハ本義ニ *influence* スルナリ、外界ノ事情ノ *influence* トハ例上
公日ハ色ハナレ在界ノ有様ヲ種々、別科知ニ依テ伸伸ナレ、故
ニ山ニ入りテ發生殆スルニマラレハ此ノ *influence* ハ遠ク伸ス

大思想ノ政治ヲ支配スルコトハ恰モ英雄力在史ヲ作ルト全様ナ
リトスフ人ト、又本説ハ政治ヲ *influence* シテ行マレトスフ人トナ
リ、コレハ即チ程度ノ問題ナリ、何レヲ可トスヘマカ、又如何ナル
程度ナルカ、*influence* ガ遠近ニ及フトハ直接ノ問題ナレトコトハ勿論

一ルニ其レカトシ程ノ巨商ブルカハ此ノ情ニ論セス
事實ニ違スルトアリ

II

狀義、直接ニ觀看スル

此ノ狀義ノ與ニ同シテハ學說ノ種類ノ說明ト政策的トニ分テ其ノ學
說ノ根據ノ具在的ノ一般及ニ哲學的トニ分テ學者ノ主タル希望カ短
期的實現、長期的實現若シクハ研究心増大、何レニアルカ又學說ト
事實ト、巨商並ニニ學說ノ成立ト其ノ盡數ト、關係等ノ與ニ行テテ
考フルヲ要ス

學說カ說明的ナルトキハコノ說明ヲ說ンク人カ將來ノ方針ヲ自
己ニ定ムルノヲアル、之レニ及シテ政策的ナルトキニハ學說自身
カ指導ヲ試ミルノヲアル
學說根據ハ事實ニアルカ、一般のナルカ又哲學的、惡趣的ヲアル

本論

第一編 古代

學說ノ事實ト、巨商、大小ハ、及比例ス、學說ノ成立
ハ何人的ノ限界ニヨリ、大小アリ、天才アハ大ナリ
一般成立シタル學說ニハ盡數アリ、コレ時、忍耐、心教スルヤ否
ニヨツテ決セラル

第一章 希臘ニ於ケル政治研究ノ發達ノ原因

文藝ノ歴史ハ *Græce* 以前ヨリ初ムルヲ普通テアル 政治學ハ
 G. ニ初マツタモノトスワテ可ナリ 而シテ *Rome* ニ至ツテ進步
 シタトサヘ古ヒ得ル
 紀元前六世紀ノ頃希人ハ既ニ相當ニ學問的能力ヲ發達ヲ示セリ 然
 政治學ハ發達シタトハ云ヒ難シ 當時ニ於テハ政治學ノ發生ニ對シテ有
 利ノ條件ト不利ノ條件ト存在セリ 當時既ニ政治上及憲法上種々ノ發達
 ヲ經テ且ツ當時ニ於テモ種々ノ政行(國体) 確立シ加ヘルニ憲法ハ成文
 ナリキ 之レハ有利ノ條件ナリ 得立例ノ流行及ニ上流社會ノ國政
 參與等ハ不利ノ條件ナリ *Pericles* ニ對スル改革後ノ G. ノ有様
 ハ一變セリ 殊ニ *Athens* ニ於テハ政治研究ノ發達ニ適スル條件

- 應ハレリ 即チ
 1. 經濟的要素及、文學的動機
 2. 言論、自由
 3. 國体及ニ政体
 4. 對外的地位、内上
 5. 内政上ニ於ケル勢力競争
 之レ等、條件、積極的ニ政治研究ヲ發附ケル原因ナリ

第二章 希臘ニ於ケル政治研究發達ノ順序

- I *Socrates* 以前
 A 蘇時代
 B 自然學發達時代 *Pitagoras* *Democritus* 以等

二 説書批評

三 Socrates

四 Plato

A 正派

B. 守 派 St. Paul, Paulinism

Plato Academic

Aristoteles

第三章 説書批評

此、波ハ紀元前五世紀、頃ニ於ケル (殊ニ Athens 一於テ) 新思想、鼓吹者、何人ニ其者、解放的思想、代表者ニシテ殊ニ上級、青年ニ當時、説書批評中、論評、争論等、教育ヲ救フルヲ以テ其、試案トセリ 此、

此、西三ツ科ニ入ルニハ其、以前ノ思想及ヒ社会此等ヲ知ルコトヲ要ス此ノ派ハ暫々一八〇ノ佛國ニ於ケル評派ト比較セラル 説書批評、古論ハ當時平民的潮流、隆盛ニ知テ所ト何人の自覚、勃興トニ乘シテ研究心此派心ノ長セシノタルト公評ニ利己心ヲマシメテ愛國心ヲ救ヒシヲ將來ヲ愛シムルニ至レリ コ、ニ於テ此、派ニ反対スル所、ニ派頭ハレタリ 第一カ保守派、第二カ折衷派ナリ

保守派モ折衷派モ其ニ一環タルモノヲナシ 保守派ハ Aristoteles 派ニシテ 天才的文章家ヲ喜劇ヲ爲イテ自分ノ思想ヲ述ヘテ 説書批評ヲ攻撃シテ居リ

Sophistic 今日本ハ精神ヲ破サズ以テ対派、攻撃トナソテ其、攻撃サレタル如ク反対派ニヨリテ破ナレテ居リ 然レハ其紀ヨリ以來 Hegel ヲ初メトシテ一八九七迄ニ至ツテ公平ナル批評ヲナルニ至レリ 即チ一ツノ攻撃派ナルコトヲ明ニセザレバ説書批評、トナ

第四章

Socrates

彼ハ徳性ナル思想ノ普及ヲ以テ彼ノ生涯ノ事業トセリ 彼ヲ知ルハ彼
 ノニ人ノ弟子ニヨル外ナン 彼ノ思想ハ秩序ト自由トノ論ニ帰着ス
 彼曰ク 人類ハ天賦ノ性質上社会的ナリ 政治的ナリ 故ニ國民トシテ
 ノ義務ハ人類ノ現存ニ有シテ居ルノヲアル 而シテ右何人ハ其ノ行爲ノ
 準則ヲ同法ニ求ムヘシ 不当ナリト認ムル法規ノ改良ハ斯ノ如ク法規ヲ
 行ハシムル所ノ政治的状態ノ改良ニヨルヘシ 知識ハ賢良ナル生活ニ連
 スル唯一ノ道ナリ 故ツテ國政ハ必要ナル知識ヲ有スルモノニ託スヘシ
 知識ニヨリテ官界ヲ定ムルカ如キハ不條理ナリト
 二人ノ弟子ハ P. Plato ト Xenophanm ナリ 彼ハ向答ノ
 以テ一般人民ニ教ヘ別ニ着目ヲ有セス
 Sophist ヲ攻撃スルヲノニ由リ 吾等ノ如クニモヨトモフ Que

philosophy / 保存派ヲナク 新シキ社会ヲ望ムノヲハナケッタ
 識者ヲシテ勢カヲ得ニコトヲ主張シタノヲアル

第五章

Plato

彼ノ政治学説ヲ系統的ニ説明スル所在ナル原則ニツテ
 1. 他本説トノ相居
 2. 年長ズルニ伴フテ思想ノ衰退
 3. 彼ノ思想ハ科学的ヨリモ寧ろ哲学的ナリ
 彼ノ著書ノ外政上ノ特色ハ向答ニ依リテ推論ニアリ 其ノ内容上ノ
 特色ハ人類改良ノ熱情、精神力ニ付スル信念トニアリ
 以下ニ著書ニ付キテ大伴ヲ述ノ
 彼ノ時代ハ魏宋ノ如ク時代ト同一ニ衰退的ナ Democratic

時代トリキ

1. 政治學說トシテ分寄シテ居テクツ

2. Exactヨリニ神祕的ヲアツク

3. 精神ニツイテハ即チ或ル一事ニ付キテハ他ヨリ討論ヲ取ツテ迄レ
テ居テ

精神カノ類ハコトニ唯年ニ至ツテハ稍、衰ヘク嘆キカアルカ然シ
精神一到ノ考ノハアツク Republic カ中年ニ出テノア

ル而シテ Republic ハ共和國ヲナク今日ノ國意ヲアル而
シテ全体ヲ通シテ正義ヲ出ノテ居ル

I. Republics

此ノ原ノ内容ハ純正哲學、倫理、教育及、政治ニ跨ル 此ノ著作ノ
動機ハ純然水ニ対スル故ノ公憤ナリ 此ノ各物中ニアル故、文教ノ有
シテ其ハ次ノニツナリ

1. 階級主義

國家ハ人心ノ結果ナリ 人心ハ三ツノ要素ヨリ成立ス 慾望的要素、
精神的要素及、道德的要素之レナリ 國家ハ此ノ三要素ヲ代表
スル所、三ツノ階級ヨリ成立シコノ三階級ハ經濟的、單獨的及、統
治的、三作用ヲ分担シテナル 國家ハ斯ク、如ク分化シタル三階級
ノ結合ナリ 階級ハ社會的、國家的ナルヘカラス 級人カ金人ヨリ
ホリス級人カ金人ヲ出ハコトナリ 政ニ統治者ハ然何人ノ道不違ヲ
判断シテ其ノ適スル階級ニ編入スヘシ

カ・ル事カ正義ヲアル 此ノ主義ヲ実行スルタメニ人間ヲ改良
スヘシト云フ 此ノ外ノ Collectivism ト教育トヲ併
メテ正義ト云ヒ人類改良ト云フ 教育ハ十八才マテ感情ニ才
以上ハ理性教育トシ一八一ニ。内ハ過渡時代ナリト 而シテ注入
的、教育ヲ率ンテ階級的能力ヲ教育スヘシト、此ノ階級論ハ取ル
ヘシ 此ノ教育ハ政治学ヲナイカヲ思ス

2. Collectivism 共有主義

彼ハ主として精神の手故即チ教育ニヨリテ個人ト社会トヲ改良セ
ント思ヒレカ其ノ実行サレシカタメニ碍害物ヲ除クノ意味ニ於テ更
ニ物質的手段ヲ採ルニシテ共有者ニ於テ發見セリ 共有主義ト述キ
社会主義トシテ此類ハ有蓋ナリ 彼ノ發見實ニ到着点ハ共ニ精神的
トムニ得ヘク述キ社会主義ハ主として物質的ト名付ケルコトカ
出スル 主として行ハント云フ範圍ニ付マフモ人及ヒ事項ニ閉シテ巴
別カゾル

範圍ニ付キテニ述キ社会主義ハ人間全部ナルニ當時ハ奴隷ヲ
リテ止レニハ及ハナカツタ 又經濟的要素ノ部類ノ人ニハ及ハナ
カツタ 事項ニ付マフハ Plato ハ一夫一婦制度ノ破壞マテ叫
ンテ居タ

II Statism

1. 君主專制主義

知識ヲ有スル者西々ハ寡ノ政治家ヲ知シ、操掌ナリ 寡ノ政治家
ハ人臣ノ意ヲ迎ヘヌハ法律ヲ重シテ支配スルモノヲ云フニ非ス
如何ニシテ支配スルカヲ知ル人ヲ云フ 斯ノ如キ高貴ナル知識ハ利
益多数ノ有、得ヘテ非ス 衆民測ト寡ノ政治家トハ別立セス
新ノ如キ知識ヲ完全ニ有スルハ一人ナリ 寡ノ政治家ハ君主ナリ
理想的団体ハ寡制君主同ナリ 君主ノ行動ニ商シテ人民ノ同意ヲ要
スルヲ如キ石ニクハ法律上ノ政式ヲ踏ムカ如キハ論スルニ足ラズ
之レ等ハ主として君主ノ行動ノ自由行動ヲ妨害スルノミナリ ト彼ハ
彼ノ新制即憲法主義ヲ主張セリ

2. 國家ノ分類

甲

- a. 完全知識、國家（前述ノ國家、理想國家）
- b. 不完全知識、國家、即チ法廷國家
- c. 無知識、國家

2. 法律的国家

- A. 立憲君主制
- B. 貴族制
- C. 立憲民主制

4. 随意的国家、統治者、勝手に政を治スルモノ

- A. 王制的国家
- B. 寡頭制
- C. 極端民主制

立憲君主制を最善と見做す国家を最と見ス

III Law of Laws

Republic, 思想的ナルニ及シテ先般実行的可能ヲ思フ

谷イノ

法律ハ人類生活ノ全部ヲ支配スル規程ニシテ從ツテ單ニ外政的ノ事

命令止マラス精神ヲ支配ス 法律、又ニ於テ充分ニ法律ノ精神ヲ

說明シ各個人ニ共ニ適用ノ規程トスルハ、
單純君主制並ニ單純民主制ハ其ニ弊害多シ 前者ハ自由ヲ害シ後者
政府ヲ此ル 但シテ此、兩者ヲ辨知スヘシ 其ノ方法ハ前者ニ於テ
ハ政府ノ官民ニ分テテ以テ君主ノ專權ヲ抑制スヘシ 後者ニ於テハ
民ノ個人ノ選舉及反ニ監督權ノ制限ニヨリテ人民ノ權力ヲ増強ナラシ
ムヘシ

- 1. 國家ノ權力ハ強ニシテ強ナルコト
- 2. 教育ヲ主トスルニ對シテ法律ヲ主トスルコト
- 3. 宗教ヲ監督者ニ委スルニ對シテ宗教ニ關スル規程ヲ詳カニ説ク
- 4. 内政ヲ總括セシムルカタノニ國法既カノ絶対的統一ヲ主張スルニ
- 5. 對シテ一先、制限内ニ於テ財產ト家族トノ存在ヲ認メ
- 6. 外國人ハ排斥シ對人ハ放逐シ奴隷ハ認メサルニ對シテゴノ三項ハ

5. 主権ヲ持学者ニ委スルニ対シテ之レハ人民一般ニ委メル
6. 国家ノ权力ノ無制限ナルニ対シテ之レヲ有限トスル
7. 人民ノ性質ニヨツテ之レノ階級ヲ以テ之レニ対シテ階級上ヲ階級ヲ
8. 政府ノ組織ヲ詳説セサルニ対シテ之レヲ詳説ス

第六章 Aristoteles.

I. 政治学ノ性質

7. 学問ハ權ニ繼トニ分類シ得ハシ 前者ニヨルト政治学ト応用学ト大別シ政治学ト応用学ニ又政治学ハ變更シ得サル目的物ハ *study* ス 然シテ *study* 法ニ理解ニ存シ変化ニ存セス 然レテ政治学ハ純理ノ變化ニケル目的物ハ *study* ス 然ツテ其ノ目的

的ハ理解の變化ニ存ス

其ノ分類トハ学問ノ価値ニヨル階級の分類ニシテ人類生活最終目的ハ *study* スル以テ国家トシ最高位ヲ占ム

II. 国家ノ起源

- 国家ノ自然の起源ハ人類ノ自然の需要ニ存ス 各個人カ單純生活ヲ以テ其ノ有スル物質的 精神の慾望ヲ満足スルコトヲ解ス 共同生活カ即チ国家ノ自然の活動ト云フヘキ理由三ツアリ
- 甲 國家ハ人類學達ノ経路ノ導着点ナリ コノ経路ノ始階級ハ人類本能ヨリ不生シ来ル自然の活動ナリ
 - 乙 國家ハ人類ヲシテ最良生活ヲ管ハコトヲ得セシムルナリ 凡テ最良ノモノ自然の産物ナリ

- 丙 自然ハ振用ニ何物ヲモ創造セズ 人類ニ言葉ノ能力ヲ附與セルハ自然カ人類ヲシテ國家ヲ構成セシメシメクケメナリ

III. 國家ノ目的

国家ハ人類ノ道德的生存ニ於ケル精神的結合ナル故其ノ目的ハ善良
 生活ニ存ス 善良生活トハ即チ幸福ヲ意味スルモノヲ幸福ヲ組織スル
 ニハ外的的 身体的及ヒ精神的ノ三ツノ要素ヲ備フルコトヲ要ス 而
 シテ富及ヒ健康ハ重要ナルニ總行ハ最も重要ナリ 国家ノ善良生活ハ
 的何人ニ於ケルカ如シ

IV 国家ノ分類

- 彼カ国家ニ対シテ試ミタル所ノ種々ノ分類ノ中ヲ最も有益ナル正則
 並ニ変則ノ二種類ニ基ケテ所ノ各三國体ノ分類ナリ
1. 正則国家
 - a. 君主国
 - b. 貴族国
 - c. 市民国
 2. 変則国家
 - a. 君主国

V 法律

法律ハ人ノ行為ノ精神的限界ノ總體ナリ 而シテ徳義的ノ規律ナリ
 法律ハ個人ノ作ル所ナリ 立法家ハ政治家以上ナリ 法律ハ政府ノ行
 動ノ標準ヲ示ス 政府ハ多數者ノ手ニアルモ多數者ノ手ニアルモ其ニ
 濫用ニ備リ得シ コレ濫用ヲ子防シ正義ノ体度ヲ公平ナルヲ期スルニ
 ハ法律ヲ尊重シテ政府ノ活動ヲシテ其ノ範圍内ニテラシメサルヘカ
 ス 下然若シ品性ト能力トニ於テ万人ヲ超越スル所ノ偉人カ出現シテ
 ルハニハ其ノ勢力ヲ恐レテコレヲ放逐スルハ非ナリ 等口ニレテ頂イ
 テ專制君主トナスヘシ

VI

人ハ自然ニ不平等ニシテ或ハ能力主人タル性質ヲ有シ或ハ体力奴隷
 タルニ適スル性質ヲ有ス 凡テ技術ハ適當ナル 存在ヲ必要トス
 器具ニハ無生物アリ 史物アリ 奴隷ハ生物的 ニシテ財産ノ一部

分ナリト 彼、奴隷自然論ハ徹底的ニアラス 彼モ亦奴隷ノ人タルヲ
認メ人タル以上ハ理性ヲ有シ然ツテ意思ノ自由ニ伴フテ行動ノ自
由ヲ要スルヲ認メタリ 彼ハ奴隷中ニモ人オアルヲ認メタリ 然ツテ
彼、奴隷制度ヲ極端ニ流レス

VII 理想的国家

彼ハ理想的国家ノ要素トシテ臣民ノ数其ノ性質及ヒ土地ニツキテ種
々説明セリ

其ノ要矣ハ下ノ如シ

1. 理想的国家ノ人々、最大限ハ一同ヲ組織スル爲何人カ互ニ其ノ他
ノ人ニ向シテ多少知り得ル数トシ其ノ最少限ノ国家ノ自定地生活ニ
必要ナル数トシ此、數ハ国家ノ分子即チ市民ニ向シテ云フ、テアツ
テ外國人及ヒ奴隷等ハ附随ノモノテアツテ然ツテ其ノ數ハ添ク論ス
ルヲ要セサルニ秩序ニ管アル程多數ナルハ不可ナリ
2. 土地ニ向シテハ其ノ範圍ハ凡ソ、市民カ相當ニ定石シ且ツ余暇ヲ

得ルニ適セサルヘカラス 土地ノ性質ハ自定主義ニ満足ヲ與ヘ外固
ノ供給ニ依ルヲ要セサル程ニ必要ナル種々ニ活動ヲ産出スヘキナリ
土地ノ分配ニ向シテ一部分ハ固有トシ他ハ私用ニ委シヨノ私有地ハ
各何人ニシテ各々一部分ハ市ノ附近地ノ部分ハ同境附近ニ用マシム
ハシト説ク

VIII 革命

甲 革命ノ原因

1. 政治上ノ不平等、不公平
2. 將來ノ利益ノ予期
3. 機会ニ

乙 革命ヲ避クルニ関スル注意

1. 現行憲法ヲ賛成スルモ、數ニ之レヲ反対スルモ、數ヨリ
モ多キコト
2. 中庸的政治ヲナシ反對者ヲシテ抑圧、不平ヲ誅ヘルノ機会ヲ

得セシメサルコト

3. ヲシテ私利ヲ管ムノ道具タラシメサルコト

以上 *Policies* ノ存物ノ中ニアル大体系ヲ遠ヘタノヲアル

II. *Ethics* ノ中ニモ大体系同様ノ争ヲ遠ヘテ属ル故焉ス

第七章

Co-states ノ流ヲ汲メル
傍系(主観派)

此ノ派ハ智識ノ觀念ヲ重ニシエシニ依ツテ研究並ニ活動ノ標準ヲ得ン
ト欲スル莫ニ於テハ *S* ヲ承継スルコト主観的満足ヲ以テ目的トナル各
個人ヲ以テ活動ノ目標トナシタル莫ニ於テ *S* ニ反シ競合派ニ接近ス

第八章 *Polyblends* (Part. B.C. 1)

万国史中ニ団体論選説ナルモノアリ 此ノ精選ノ順序ヲ述ヘン

1. 武力的君主国
2. 徳義的君主国
3. 専横的君主国
4. 善良貴族国
5. 不良貴族国
6. 善良民主国
7. 不良(暴民国)民主国

人爲ヲ以テ斷ノ如キ精選ヲ多少左右シ得ルカ永久ニ之トヲ避クルコト
能ハス 不致ヲ予防スルニ最初ヨリ正則団体ヲ混用シ國家機関ヲ組織ス

ヘシ 斯ノ如キ国家ノ諸々ノ勢カヲシテ相ニ抗衡ヲハ得セシノ其ノ一ツ
カ極端ニ夫ルカケメニ国家ノ変遷ヲ括クヨトヲ防クコトヲ得ルト

二八

第九章 希臘ノ政治學說ノ一般の缺點

1. 政治ノ研究カ法律經濟ノ倫理宗教ト混同ナレタリ
2. 國家万能ノ欠点
3. 恣用的研究ノ理想的研究ニ備セリ
4. 事實研究カ尺ヲナカッタコトハ明クアル
5. 小國的
6. 階級的
7. 代議ノ觀念ナシ
8. 排外的

第十章 羅馬人ト希臘人

Rome 人ハ Greek 人ニ比シテ法律及ヒ政治ノ實際ニ於

- テ優レルコト多キナリ 政治ニ関スル本説ニ至ツテハ大イニ分レリ 概
シテ希臘人々思想ヲ繼承シ之レヲ祖述スルニ止マレリ 之レ西人民ノ向
ニ三ツノ點シテ對照アリ
1. 希臘人ハ美ヲ重シ羅馬人ハ實行ヲ重ンス
 2. 希臘人ハ知識ヲ重シ羅馬人ハ意思ヲ重ンス
 3. 希臘人ハ道德ト法律トノ第一ヲ重シ羅馬人ハ其ノ區別ヲ重ンス

第十一章 羅馬ノ政治法律ノ根本思想

二九

7. 成法ト秩序
2. 道徳ト法律トノ區別
3. 國家ト社會トノ區別
4. 立法方能ト主權觀念
5. 個人々格ノ承認
6. 大國ノ觀念

第十二章 希臘思想、羅馬輸入

避ケツ、モ尚入り来ル思想ハ入り来ルモノヲ進歩シタル希臘ノ思想ハ
 帝國的羅馬ニモ入り来ル恰モ現代ノ我カ國カ外國思想ヲ価値ヲ認メテラ
 避ケントシ避ケントシラモ尚入り来ルカ如シ
 羅馬、政治家トシテ *Cicero* ヲ學ケル

羅馬ハ法律思想ハ祭連シタルコトハ明ラアル

Stoic カ旺盛ヲアツタコトモ知ル

羅馬ニハ實行欲トシテハ大ナルモノアリシモ學說トシテハ大ナルモノ
 ナシ

Christian Brothers ノ思想ハ *Roman law* -
yers ノ思想ト相混シテ後世ニ *inf* シテ来リ居ル

第十三章 *Rome* 法律家ノ 政治思想 H. C. - VIG.

彼等ノ政治思想ノ研究ハ *Roman Empire* / *Christ*
 教以外ニ立ナタル政治思想ノ大體ヲ知ラシム 彼等々法律ノ制定解教及
 ヒ其ノ適用ニ殆ト其ノ全カヲ授シタルモノニシテ國家ノ根本論、如キハ

自ら探ク研究、勞ヲ取ラス當時通用シタル普通觀念ヲ採用シタルノミナ

リ 彼等ノ思想中注意スヘキヲ

ア. 自然法及ヒ自然狀態ノ思想
自然法ヲ以テ原始時代ノ自然狀態ニ存在スル所ノ法トナス觀念ニ
伴ヒテ奴隷ヲ以テ國際法ノ產物トナシ自然法ニ於テハ人類ハ平等ナ
リト稱スル法律家カ漸次其ノ數ヲ増セリ

Rome 法ハ終ニ主人ノ奴隷ニ對スル權利ヲ制限シ奴隷ノ狀態
ニ干渉スルニ至レリ

ス 法律ト正義トノ關係ニツイテ

國法ヲ以テ正義ノ大原則ノ適用ト看做セリ

3. 彼等ハ政治的權力ノ淵源ヲ人民ニ帰セリ 素ヨリ之レハ純然タル
理論ニ違ヤスシテ實際ニ於テハ君主專制ヲ拘束スルニ法律ヲ以テシ
タノヲアル

第十四章 教父ノ政治思想 H. C. D. I. C.

I. 國家ノ性質

國家ノ権力ハ神ノ授ケル所ナリ 故ニ國家ニ服従ヲ拒ムハ即チ神ニ
服従ヲ拒ムモノヲアル 國家ノ目的ハ勤善・樂善ナリ 國家ノ統治者
ハ此ノ目的ヲ達スル神ノ僕ナリ

II. 自然法

自然法ハ神法ヲアツテ神ガ人心ニ爲イタノテアツテ人類ノ行為ノ標
準ヲ示ス 神ハ元素凡テノ人ヲ自由ナルモノトシテ創造セリ 奴隷ハ
主トシテ造ラアツテ身体上ノ事ニ関スルノミナリ 奴隷失ハ、人類罪
惡ノ結果ナリ 主人ハ奴隷ニ寛大ナルヘク奴隷ハ主人ノ良石ヲ向ハス
之レニ服従シ耐忍シテ自己ノ境遇ニ甘ニスヘシ

III. 君主神聖

政府ハ人類ノ墜落ニヨリテ發生シタルモノナリシカ又同時ニ人類ヲ
救正セントスル神意ニ出ラタルモノナル故ニ君主ハ即チ神ノ代表者ナ
リ 故ツテ君权ハ神聖ナリ

IV

Constantin 改革前ニ於テ國家ト教會トノ關係ニ就テ、議
論ハ甚クシカリヤ 蓋シ教會ハ全ク國家ヨリ分離シテ國家ハ之レヲ故
視シ出未得ヘクンハ之レヲ撰派セント欲シタリ 之レニ對シテ信徒ハ
君主ノ命ト豈ニ信仰ヲ放棄セシメ能ハサルヲ主張シ同時ニ耶蘇教ハ國
家ニ有害トナラサル、ミナラス忠實ト秩序トヲ教ヘルカ故ニ國家ニ有益
ナルカ故ニ此ノ疾ヨリスルモ又人道上ヨリスルモ國家ハ之レヲ認容ス
ルコトヲ要求セリ 然其レ以上ノ期待ヲ得セザリキ

Constantin

改革以後ニ於テハ教會ト國家トノ關係ニ向
シ教父ノ主張ノ要奥ハ下ノニツナリ

1. *Christ* 教社會ニ於テハ僧俗ニ杖ハ共ニ神ニ出タルモノニ禮観
ノ人ニ託セラレ各々其ノ管轄事項ニ關シテハ他ノ干渉ヲ入レス

2. 僧俗ニ杖ハ各々獨立ナリ 兩者ノ關係ハ必ス發生ス 而シテ相互
ニ他杖ノ範圍内ニ於テハ之レニ服従スヘシ

第二編 中世

第一章 第九世紀ニ於ケル政治學說

第六世紀ト第九世紀トノ向ニ於ケル事狀ノ差異ノ大ナルモノニツアリ
ノ 羅馬ノ増正ト偶像崇拜禁止君トノ爭論以來人民ハ君主ヲ見ルコト
從來ト異ルニ至レリ

2. *France* 帝國時代ニ至ツテ君主ハ多クハ無教育ナリ

3. 第九世紀、若者ハ多クハ僧侶ニシテ其ノ伊太利以外ノモノ、殆ト全部並ニ伊太利ノ大部分ハ Justinian 系ニ屬セリ
中世ノ政治學說ハ牙爾カ多イモノヲ以下ニ述レテ

I. 君主ノ地位及ニ其力

甲. 君主ハ神聖ニシテ犯スヘカラスノ說 國家ノ力カハ神聖ニシテ神ノ代表スルカ故ニ Christ 教徒ニ凡テ之レニ服従スヘシ 君主ニ反對スルハ神ニ反抗スルモノニシテ極惡ナリ 良君ハ神ノ任命セル所ニシテ不良君ハ神ノ許セル所ナリ 人民ハ不良君ニ對シテ不平ヲ懷クヘカラス

乙. 君權制限說

君主ニシテ正シヤモノト然ラサルモノトアリ 君主ハ正義ヲ守リ仁慈ヲ施シ智者ヲ重シシ神ヲ敬ルヘシ 君主ハ法ノ上ニアラス法ノ外ニアリ 法ヲ施行スルノ責任ヲ有ス 君主ハ法ノ唯一ノ淵源ニアラスシテ其ノ一淵源タルノミ 君主ノ正當ニ即位スルハ神ノ命ノ授及ヒ豪族並ヒニ人民ノ選舉ノ

II. 教會ト國家

三條件ヲ要ス

當時ノ政治論者ハ一方ニ於テ君主ト君權トヲ尊重スルモ他方ニ於テ國法ト共ニ其レ以上ノ權威ヲ有スル所ノ教會法ノ存在ヲ主張セリ 概等ハ次ノ三矣ヲ主張セリ

1. 俗權、僧權共ニ教會ノ支配内ニ存ス
2. 俗權ノ主張カ其ノ義務ノ如何ニツクスカニ因シ僧侶ハ多少ノ責任ヲ有ス

3. 僧侶ノ地位ハ君主ニ比シテ一層高等ナリ 何トナレハ君主ハ僧侶ニヨリテ初メテ其ノ地位ヲ神聖トナシ得レハナリ

第二章

第十一世紀乃至十五世紀ニ於ケル政治學說

I. 概説

中世、法学者及び教会法学者ハ団体法説ヲ學達セシメタリ 當時ノ
 神學ハ何レモ神ハ宇宙ヲ支配シ神學ハ神意ヲ推測スルモノトセリ 中
 世政治思想史上、特色ハ中世固有思想、古今思想ト對等ナリ 今古思
 想ハ即チ當時、改進思想ニシテ其ノ最初ノ代表者ハ法王專制論者ナリ
 次テ羅馬法學者、皇帝專制論者 Aristotale 研究者ヲ混同シク
 リ 彼等ノ議論ノ形式ハ依然トシテ中世式ナリ 十五世紀ニ至ツテ人
 道主義者ハ形式ニ於テモ一變シ純然タル復古主義ヲ主張セリ

II. 教会ト國家

凡テ、人類ヲ包含スル所ノ統一的社会ヲ實現セントスルコトハ中世
 ノ、慾望ナリキ エレト共ニ社会カ精神のト世俗的ト、ニツニ分ル、ト
 ヌフ思想ヲ伴ヒキ 此、統一の慾望ト此、二元的思想ト、抵觸ハ國家
 對教公論ノ發見ナリ 此、所ニ於テ權權派ト俗權派(君主派)ト生
 セリ 權權派ハ宗教的權カヲ以テ世界ヲ統一スルコトヲ望ミ凡テ、政

治組織ハ結局宗教組織ノ一部分ニ違キスト主張セリ 俗權派ノ論者ハ
 敢テ斯ノ如キ大膽ナル主張ヲセス 教会ノ前時代(九世紀)、主張ヲ以
 テ熾大セリ

克ニ角何レノ思想ニ宗教ヲ無視シ得ザリキ 殊ニ双劍主義カ旺ニニ
 行ハレニ居タ

II. 社会有機体説

Bible 及ヒ古代ノ著書ヲ引用シテ社会ト人体トヲ比較スルコト
 中世ニ流行セリ 或ハ人英ヲ一ツノ有機体トナシ或ハ社会ト人体トヲ
 詳細ニ比較シ或ハ組織ノ觀念ヨリシテ社会各部ノ關係ヲ論シ或
 ハ階級的文化ノ必要ヲ説キ或ハ社会有機体ノ起源、直捷スハ間接ニ神
 ノ創造ニ帰セリ

IV. 君主制

宇宙ハ神ヲ戴ク君主國ナリ 生物界、無生物界共ニ君主制的秩序ヲ
 有シテ居ル 教会ニ國家モ共ニ君主制ヲラサルヘカラス 政治的機關

ハ單一ナラザルヘカラス 然ツテ單一自然人ナラザルヘカラス
 國家ニ於ケル君主ノ地位ニ關シテハ當時ノ思想ハ混有トシテ居タ
 君主ハ神命ニ依ツテ統治スト云フ *Quod Regibus* 傳來ノ思想ニ
 シテ此ノ思想ハ *Christ* 教ノ援助ニヨリテ統治者ノ地位ヲ高
 ムルノ傾向ヲ有シタリ 此ノ思想ト同時ニ君主專制說ニ行ハレタリ
 即チ君主ハ公共的ニシテ人民ク存在スルタメニ統治者ノ必要生ス
 君權ハ無限ニアラスシテ任務ノ範圍内ニ於テ、ミ存ス 君主ニシテ其
 ノ義務ヲ怠タリ若シクハ其ノ權力ノ範圍ヲ脱シタルトマハ暴君ナリ
 (*tyrant*)
 V 人民主權
 人類団体ノ種族ヲ向ハス其ノ団体全部ニ固有ノ權利ノ存在スルト云
 フ觀念ハ中世思想ノ一特色ナリ 此ノ思想ハ國家ニ關シテニ教會ニ關
 シテニ行ハレタカ先ツ學說ノ取ヲナシタルハ國家ニ關スル議論ニ於テ
 ナリ

元來君主ノ權力ノ起源ハ人民ノ意思ニ存スルト云フコト古來ノ封建
 思想ニ附著セリ 此ノ思想ハ教父等ノ自然狀態說ト交合セリ 汝王ト
 帝王トノ稱カ旺シニ赴ケリ 汝王ハ神ノ直接創造ニナレル僧權ク高
 内ナリト主張セルニ對シ帝王ハ國家又民ノ服從契約ニ始マルヲ以テ
 君權ノ起源ハ決シテ不当ナラスト弁セリ

VI 代表觀念

- A 君主ハ代表的性質ヲ有ス 君主カ君權ヲ行フノハ個人タル資格ニ
 於テスルニアラスシテ君位ニ伴フ權利義務ヲ行フノテアル 國法上
 君主ノ相スル權力ノ範圍内ニ於テハ君主ハ社會ノ主張トシテ社會全
 體ヲ代表スルノテアル
- B 人民団体ノ權利ハ國法的ニ組織サレケルヲ議會ノ公權ヲ云フ 各
 個人ハ個人ノ資格ノ外ニ社會的資格ヲ有シ団体ニ屬スル權力ノ行使
 ニ參與スル各個人ノ積極的市民トシテ之レヲ為スニアラスシテ積極
 的市民タル資格ニ於テ為スノテアル

C. 選挙権、皇帝選挙、特権ハ人民代表ニ做ル

僧侶モ土地ヲ有シ皇帝選挙ニ加ハレリ 此ノ選挙権ハ人民ヨリ興ヘラレタルモノト、名目ヲ表シテ居タケ勿論人民カ選挙候ヲ選挙シタ事モ意見ヲ徴セラレタコトモナシ

VII 人格観念

当時、私法家ハ既ニ教会及ヒ国家ヲ以テ法律上ノ主体ト説キ遂ニ擬制人ノ範圍ヲ脱セサリキ

政治公法論者ハ私法家ノ精神ヲナメテ居タ

国家人格説ノ中世ニ發生セサリシ主ナル理由三ツアリ

a. 当時統治者ト被治者ト、向ニ於テ爭ハレタル権利ハ凡テ主権ノ觀念ヲ以テ包括セラレテ居タル故ニ人為的擬制人カ斯ノ如キ権利ノ主体ナルニ不当ナリト看做シ居タリ

b. 國權ノ分割論及ヒ制限論ノ起ルニ際シテ論者ハ此ノ権利ヲ行使スル人ヲ見ルニ急ニシテ莫レ以上ニ國權ノ所在ヲ論及スルノ必要ヲ感

セサリキ

C. 古代、學說ナリシ國家ト有形的主権者トハ同一視スル觀念ハ再ヒ強ニ糾ケリ

VIII 國家ト法律

A. 旧法運思想ニ對シテ不満ヲ感シ國家ヲシテ法律ノ拘束ヲ脱セシメント欲シ *Græke* 思想ヲ採用シテ國家ノ法律ニ對スル關係ノ夫

配的ト解セリ 然レ旧法運思想ヲ全然放棄スルコトナクシテ兩思想、調和ヲ成立村自然法ノ觀念ニ求メケリ

B. 自然法ニ絶大ノ権カヲ認メタレトモ同時ニ多少ノ制限ヲ之レニ加フルノ思想存在セリ

即チ成法ヲ以テ自然法ヲ排スルコトハ不可能ナリ 自然法ノ原則ヲ特定ノ場合ニ適用スルニ當リテハ相當ノ參酌ヲ加ヘ事必ニ適合スル規定ヲ設ケ此ノ規定ハ時ニ變動ストナス

C. 自然法カ主権者以上ニ適スルト云フ反面ハ成法カ主権者ニ絶對服

位、地位ヲ保ツタトニ於テ發見シ得ヘシ
當時者ハ主権者トナスモノ、成法ヲ以テ明示スハ默示ニシテ統治
者、意思ト同一視シ統治者ハ全権者又ハ自己ノ過去ノ意思ニヨリテ
拘束セラルヘキモノニアラスシテ必要ニ應ジテ法律ヲ改廢シ得ヘシ
トナス

四四

II. 結論

國家ト何人トノ間ニ存スル中間団体、最微
中世思想、磅ヲニ古今思想ヲ遠シ後者ノ生長ハ中世社會組織、
及ヒ國家ノ自然史的解釈、不遺ト相伴ヒテ來レリ 斯ノ如キ思想
ノ進化中ニ於ケル重大ノ事實ハ權利及ヒ權力ノ集中の傾向ナリ 即
チ理論上一方ニ於テ最高最大団体地方ニ於テ各個人トカ次第ニ重要
視セラルニ至レリ

第三編 近世

第一章 Machiavelli:

I. 彼ノ學說ニ共通ナル特色

- A. 歴史的研究
- B. 現代事實ノ研究
- C. 政策的研究
- D. 國家膨脹政策ノ研究
- A. 古代殊ニ羅馬ノ研究、之レハ時ト所ト通シテ人間ニハ種異ル
モノヲナイト云フ起矣アリ
- 之レ第四ノ特色ヲ見レハ近世的ヲアル云ハル 又宗教ヨリ遠ク

四五

ヲ居ル

II. 政治ト道德及ヒ宗教

A. 政治ト道德

彼ハ政治研究ト道德研究トヲ全ク分離シテ設立ノ學問、粗立ヨリ
企テク、似ハ道德ノ價ヲ否認シタルニフラス、自然道德ノ政治上ニ
於ケル後ハ別ニ立レテ政治的觀察與ヨリ異ムヘント主張セリ、而シ
テ彼ノ所謂政治的、觀察的トハ政治ノ發達及ヒ維持ナリ、此ノ
目的ヲ達スルカケルニハ普通ノ道德思想ニ及スル行為ヲナスモ可ナ
リトセリ

B. 政治ト宗教

宗教的行為ニシテ政治ニ關係ナキモノハ概ノ研究以外ニ存シ關係
アルモノハ之レヲ政治的觀察ノ下ニ立タシメタリ、即チ曰ク、人民
ノ宗教的感情ハ政策上重要ノ武器ナルカ故ニ政治家ハ之レヲ其ノ計
算中ニ數フヘク之レヲ利用セント努ムヘシ、宗教心ノ減退ハ國家衰

微ノ前徵ナリ、政治家ハ注意スヘシ、政治家ハ人民ノ宗教心ヲ利用

スレハ困難ナル改革ヲ遂行シ得ヘシ

C. 彼カ道德及ヒ宗教ニ対シテ如何キ態度ヲ取リシ原因

- 甲 彼ノ國家本位思想
- 乙 彼ノ強者尊敬思想
- 丙 彼ノ現實的思想
- 丁 彼ノ倫理的悲觀
- 戊 彼ノ時世

III. 國体

彼ノ國体論ハ概来ノ正邪各ノ三種ノ國体分類ヲ適用セリ、混合性ヲ
以テ最良ト致セシメ君主國ノ共和同ト、得失ニ同シテハ種々ノ評論ヨ
リ彼ハ單純ナル專制君主兼護者ニアラス、例ヘハ經濟上平等ナル人民
ヨリ成立スル國體ニハ共和制カ適ス、他制度ハ永続シ得ス、君主制ハ
政治的、法律の制度ノ更迭ハ適スレトモ其ノ維持ニ至ツテハ共和制

領土の時代、境邊ト、交還ニ伴フテ政策、適合セシムル矣ニ於テハ
共和制優ル、然レテ國家ノ膨脹政策上ヨリ見レハ君主制可ナリ

IV. 領土膨脹

領土ノ膨脹ヲ行フニ最モ容易ナルハ同一言語及同一制度ノ行ハル
ル接統地方ナリ。旧社会ノ併合シテ之レニ新制度ヲ施行スルハ最モ固
難ナル。其ク之レヲ遂行スルモ、ハ偉人ナリ。偉人ハ新制度ヲ敷ク
ニ当リテ説諭ノ力及ハサル時武カヲ以テ擁護スルニ苦心セリ。新制度
ノ眞価ノ優劣ナルコトハ以テ其ノ維持ノ保証トナスニ足ラス。膨脹政
策ヲ行フニ当リテ良好ナル軍隊ヲ要ス。之レカクメニハ國民大衆主義
ヲ採用スヘシ。武カト伴ヒ必要ナルハ外交術ナリ。此ノニツクモノヲ
比擬スルナレハ外交術ヲ伴ハサル武カハ放テ棄セサルナリ。武カヲ欠
クト更モ外交術ハ苦々成功ノ来スコトアリ

V. 國家ノ維持

A. 君主制

從來ノ制度及ヒ習慣ノ尊重ヲ必要トス。在譽君主ニツイテハ國家
ノ維持ハ困難ナラサルモ君主ニ付イテハ諸種ノ注意ヲ必要トシ詳ニ
説ク要ハ南明憲制主義ニ類似シテ更ニ一層道德的君主ヲ説イタモ、
ナリ

B. 共和制

共和憲法ノ彈力性ノ必要。全權ノ發行者ノ非常時ニ於ケル必要及ヒ
政争ノ必要ヲ説ク。彼ハ次ノ如ク云フ。政争ハ人民ノ感情及ヒ野心
ノ噴火口ナリ。有力者ノ勢力ヲ使柄トシ、試驗場ナリ。而シテ政争ノ
結果トシテ國家ニ有效ト制度。法律ヲ現出スル

VI.

彼ノ政治學史上ノ地位
理論ト實際トヲ密接セシメ實際ニ基クテ政治的理論ヲ組織シタル
ハ彼ノ大ナル功績ナリ。然レテ、立憲ハ道德的分子ヲ取り除キ退キタ
ルト云フ矣ニ於テ抽象的、他ノ極端ニ走レリ。サレトモ政治上ノ真相ハ
現今ト更ニ彼ノ云フ所ハ接近スル所少シトセス。彼ノ政策ハ政治道德

ノ進歩ト共ニ漸次非力セラレツ、アリ 乍然候、根本觀念ハ當時、偉
大利、説明ト營我トニ道切ナルモノアリ 生存競争説、後援ヲ得テ將
来ニ於テモ容易ニ消滅セサルヘキ一方、思潮ヲ代表ス 彼ハ全然止去
的トハ云ヘナイ 例ヘハ政府ト個人ト、争点ヲ觀破セザリキ

第二章

M. Ruthen
Author

I. 概、政治學說

A. 國家ノ起源

國家ハ自然的ナリ 且ツ人共ニ必要ナルヲ以テ共、起源ハ人共、
創造ト等シク神聖ナリ

B. 國家ノ主權

國家ハ專制的裁判權ヲ有ス 在俗的争項ニ關スル立法、行政及ヒ

司法上、管轄ハ國家ノ主權ニ歸ス 此、権力カ國內ニ存在スル凡テ
ノモノニ及ヒ屬居、伊教條モ同例外ヲナサズ 國民的國家ハ政治國
體、自然的單位ナリ 外來ノ干渉ハ國家ノ惡ヲヘキ所ニアラス 各
個人ハ適當ナル政府ニ從服スルノ義務ヲ有ス 然則明白ニ神ノ禁止
セル事項ハ例外ナリ 權限ヲ脱シタル所ノ命令又ハ行為ハ無效也
暴逆ニ對スル自衛ハ各個人ノ權利ナリ

C. 國家ノ目的

國家ノ第一、目的ハ國民ヲ保護シ惡人ヲ知罰シ公共ノ平和ヲ維持
スルニアリ 政府、行為ハ被治者ノ利害ヲ生スヘシ 特別、人又ハ
階級ニ備セスシテ万民ヲ顧ルヘシ 政體、如何ヲ問ハス凡テ政府ハ
神聖ナル寄托ナリ

D. 國家ノ職務

智力上、ミナラス道徳上及ヒ宗教上ニ於テ青年ヲ教育スルハ國家
ノ職務ナリ 貧民ヲ救濟シ、且ツ暴弊、欺弊、賭博及ヒ不道徳ニ對
シ

シテノ人民ヲ保護スヘシ

E. 國家ノ制限

宗教上及ニ民事上、自由ハ各個人ノ有スルモノヘカサレハ權利ナク、之レヲ制限スルモノハ只他人ノ有スル同様ノ權利ノ公共的平和ノ秩序ノ維持及ニ外部的生活ノ支配スル所、國家ノ主權アル、
Ruthef, 外宗教的改革、光華、シテハ *Mevauilitor,*
Karlhin, Ottomann, Rango, Yobannes,
Andreas, Madelshims 等ナリ

第三章 John Bodin

I. 國家ノ起源及ニ其ノ基礎
原始時代ニハ諸家族間ニ於ケル争闘ニ於テ敗者ハ勝者、奴隷トナリ

勝者モ亦同時ニ自己等ノ或キタル酋長ノ力カノ下ニ立ツ 斯ノ如クニシテ自然の漸由ハ消滅シ政治的服従カ現レ来レリ

國家ハ人々結合ノ最終ノ形式ナリ 各個人ト其ノ諸団体ト力カヲ以テ統一スルモノテアル

II. 主權

主權ハ市民及ニ臣民ノ上ニ存スル最高力カニシテ法律ノ拘束ヲ蒙ラサルモノテアル 國家ハ家族及ニ其ノ共同財產ノ結合ヲアツテ主權ト道徳トニヨリテ支配ナル、ノテアル 主權ノ特色ハ其ノ無制限ナル性質ニ存シ其ノ力カノ程度ニ於テモ範圍ニ於テモ時間ニ於テモ共ニ無制限ナリ 下然主權者ト受テ神法及ニ自然法ノ道學スヘク且ツ國家ノ生存ニ關スル如キ政治主義スハ根本的制度若シクハ法律ハ之レヲ尊重スヘシ

神法及ニ自然法ヲ無視シ隨意ニ臣民ノ自由ト財產トヲ濫用スル爲主ハ暴君ナリ 下然暴君ト否トハ道徳上ノ問題ナリ

III

国体ト政体

主権、所在ハ国家、種族ヲ兼シ主権運用、組織及之方法ハ政府、種族ヲ兼ス。前者ハ国体ナリ。後者ハ政体ト名付ク。国体及之政体ハ共ニ各々三種ニ分ル。共ニ君主制、貴族制及之民主制トナル。主権、分轄ハ国家ニ存セス。若シ之レアレハ共国家の社会、所謂混合国家ナリ。主権、分割アル国家キアラズ。主権行使、職務分配ニ関スル政体、一種類ナリ。

民主国体ハ多クノ実ニ於テ最モ *natural* ナリ。学理上及之實際上ニ於テ其化、多クニ失スルニト。物質的ニ流ル、コト。行政、微弱ニ陥ルコト等、又實ニ富ム。貴族國ハ君主、民主西国体同ニ位シ人物ト財產トヲ重ニスル。實ニ長所少ナカラスト云々。完全ト云々。然レ高主國ハ或ハ君位繼承ニ関シ或ハ大ナル権力、君主、性質ニ及ハス不長ナル影響ニ関シ困難及之危險ニ富ムト云々。君位繼承法ヲ確

(1) 人物、公平ナル授權

(2) 非常時ニ於ケル権力集中

(3) 領土拡張

等、實ニ於テ最良ナリ

第四章

J. Milton

Areopagitica & of Civil Power.

I. *Areopagitica* (出版自由論)

此ノ原物ハ在天上。政治上及之人性上ヨリ見テ出版ノ自由ナルハキコトヲ説キ出版權同法ノ廢止スヘキコトヲ熱心ニ主張シ英國々會ニ觀望ヲ試ミタル有名ナル小冊子ナリ。此ノ原物ハ直接ニハ其ノ目的ヲ達セサリシモ英人ヲシテ意見公表ノ自由ヲ生セシメ英國政府ヲシテ他國

ニ先レシテ出版ノ自由ヲ認メタルコトニ於テ大ナル功勞アリ
彼ハ回ク精神ヲ禁固スルハ不当ナリ 凡テ公共問題ニ対シテ自
由ナル論評ヲ行フヘキ時ハ既ニ来レリ 各種ノ學說ヲシテ自由ニ發表
セシメ真理ヲシテ設録ト戦ハシメ真理ハ常ニ公然タル戦場ニ於ケル勝
利者ナリト

II. of civil powers (宗教ノ自由)

彼ハ宗教放任論者ニシテ所謂國教ニ於ケル自由教会ヲ主張セリ 國
教 教会分商論ノ先驅ナリ 然レニ 宗教ノ自由ハ新教徒ニ依レリ
彼ノ民主主義ハ博教ノ範圍ヲ脱セヌ 彼ノ自由主義ハ消極的ナリ
能力者ノ權威ニ対スル宗教ト併行セリ

第五章

J. Hobbes

I. 國家ノ起源

國家ハ人為ニ依ツテ成立シ其ノ分子ハ各個人ナリ 自然ノ狀態ハ平
和ニアラスシテ戰爭ナリ 此ノ慘狀ヲ脱センカクメニ各個人ハ合意シ
テ國家ヲ形成セリ 此ノ合意ハ永久ニ各個人ノ拘束スルモノナリ

II. 正義

正義ハ原始契約ノ履行ニ存ス
従ツテ次ニ三ツノ果ケ生ス

- a. 臣民ノ不従順ハ其ノ理由ノ如何ヲ問ハスシテ正義ニ反ス
- b. 主権者原始契約ハ暫クモ人民ハ之ヲ破リ得ス 蓋シ主権者ノ地
位ヲ維持スルハ實力ニ依ル契約ニ依ラス
- c. 國家中多數者ハ多數者ニ選定シタル主権カニ抵抗スヘキ理由ナシ

II. 主権ノ作用

主権ノ無限性ハ自然狀態ヲ脱シテ平和ヲ維持センカクメニ使用サル
此ノ目的ヲ達センカクメニハ下ノ如キ作用カ必要トナル

- a. 意見及び学說等表ニ対スル最終決定
- b. 私有財産ニ対スル主権、無限権
- c. 臣民間ノ常識ニ対スル主権、決定権
- d. 主権、主義、講和権
- e. 主権、栄興、救災、権

IV. 団体

家長的団体、専制的団体ハ最も自然のナリ、後則団体スハ、獨裁団体ハ存在セズ、何トナレハ正則、後則ト区別スル標準ナリ、混合団体ハ有セズ、主権ハ不可分ナリ

V. 彼ノ説ノ大意

國家ヲ説明スルニ於テ事實ニ依ラス、理想的、前提ニ基キ、論理的ニ君主專制ヲ前提セント試ミタリ、而シテ後述ニ勢力ヲ得タリ

第六章

R. Spilman

Spinoza ハエトヲ思フ

Hobbes, 國權、団体ニ資シ其、基礎ヲ反セリ

彼ハ國權、起源ヲ研究シ、自然的平等思想ヲ以テ譲リトナシ、此ノ思想、起源トスル緒説ヲ薄弱トナス、可ク、自然^的平等、前提ヨリ生スル所ノ唯一ノ論理的結論ハ無政府ナル、人民主権論者ハ人民ヲ指定スルコトニ於テ決シテ成功セズ、各人平等、前提ハ多數政治スハ代議政治、正当ナル根拠ヲ失フルコトヲ得ス、此ノ前提ハ全世界、人類ヲ網羅スル組織ヲ伴明シ得ヘシトスルニ一層狭キ範圍ニ於ケル少數者ノ権力、下ニアル団体ヲ説明シ得ス

彼ハ神權ニ依ル君主権ニ因スル説ヲ下ノ如ク説ク、神ノ世界ヲ造ツク時ニ万人、万物ニ対スル支配權ハ唯ニシテ *Adam* 上レヲ神ヨリ

救ケラレ其ノ子孫ニシテ傳ヘタリ 後人英譽祖シ家族ノ賜服カ終ニ全
 世界ニ及ヒタリ 而シテ其ノ支配權ノ根柢ハ *Adam* ノ神ヨリ授
 ケラレタル家長權ニ存ス 古代ニ於テハ國王ハ單ニ家族ノ長トシテ家族
 ニ屬スル人ト物ト無限權ヲ以テ支配セリ 後世ニ至ツテハ國王ト臣民ト
 ノ關係ハ漸次ニ家族的ノ性質ハ失ヒシク之レカタメニ國王ノ有スル權力
 ノ性質ニ變更ヲ来セルコトナシト
 十六世紀及ヒ十七世紀ニ於テ專制君主說ケ歐洲ニ流行セリ 而シテ居
 主ニ對シテ人民ハ如何ナル態度ヲ取ルヘキカニツイテ思想ハ一致セヌ
 絶対服從說ハ為權神說ニ於テ最ニ極端ナル主張ヲ見ケリ 之レニ對シ
 テ自然法說ハ各種ノ君權說及ヒ各種ノ民權說ニ武器ヲ供給セリ 政治學
 說ハ十六世紀 十七世紀ニ於テ漸次ニ神學的色彩ヲ脱シ十九世紀ノ中頃
 ニ至ツ自然法ノ拘束ヲ脱レシニ代リテ正史的 巧利的 進化的等ニ甚
 礎ケ勢ウヲ得ルニ至レリ 君權神說ハ羅馬法王方能說ニ對抗セリ 獨
 法ハ先配タル權威崇拜心ヲ養成セルトニ於テ其ノ正史的価値ヲ見ルコ

トク出来ル 政治上ニ於ケル此ノ說ノ流行ハ宗教上ニ於ケル改革ト相伴
 ヒテ共ニ等シク從來ノ最高權威ニ對スル自由ト解放トノ主張ナリ

此ノ君權神說ノ要矣ハ下ノ如シ

1. 君主制ハ神命ニ出ス
 2. 君主ノ世襲權ニ因シテ何人モ殺ヲ入ルヘカラス
 3. 君主ハ單ニ神ニ對シテ責任ヲ負フ
 4. 無抵抗ハ神命ナリ
- 以上特ニ神說ノ當時ヲ述ヘタリ

第七章 *J. Locke*
Two Treatise on government.

I. 自然狀態ノ前提

自然状態ハ平和的共同生活ナリ 各個人ハ全ク行動ノ自由ヲ有セリ
然レテ人類ハ強者ニ対シテ自己ノ権利ヲ防禦スルニ充分ナル保障ヲ有セ
サルカ故ニ国家ヲ製作レリ

国家ト政府

国家ハ法規ヲ作りて之ヲ執行スルノ力ヲ有シ此ノ力ハ一般ノ幸
福ノためニ使用スルコトヲ許ス 国家ハ其ノ目的ヲ達スルためニ政府
ヲ要ス 政府ノ職任ハ立法権ノ所在ニヨリテ決定セラル 然レテ政府ノ
如何ヲ問ハズ立法権ハ公共ノ福利ノ範圍ヲ超ヘテ生命・財産ヲ知分ス
ルヲ得ス

II 立法権ト行政権

立法権ハ優々變化スル所ノ公議体ヲシテ之ヲ適用セシムヘシ 立
法権ハ最高権ニシテ行政権ハ其ノ下ニテ行政権ハ其ノ性質上常ニ
活動ス 立法権ハ然ラス 然レテ立法権ハ何時ニテモ活動スルノ権利ヲ
有ス 普通ニ毎年一決ノ機關ニ於テ活動スヘシ

IV 行政ノ主義

行政ノ首長ハ法律執行ニ関シテ最上ノ地位ヲ占ムルカ故ニ最高人
ト稱シ得ヘシ 最高人ニ凡テ官吏ヲ任免シ時ニ其ノ身ハ神
聖視セラレヘシ 君主ノ時ニ行政ノ責任行動ノ範圍内ニ一決ノ法
律的制限ヲ受ス 若シ此ノ君主ニシテ此ノ範圍ヲ超フル時ハ夫レニ新
フヘキノミ
斯ノ如キ場合ニ於テハ国家ノ最高権ハ人民ニ復帰シ又人民ハ任意ニ
政体ヲ組織シテ其ノ委託スル人ヲ変更スルカ若シテハ新政体ヲ採用ス
ルヲ得ヘシ

第八章

Boling-Brooke (1678-1751)

I 憲法ノ性質

英國憲法ハ交渉ノ結果ナリ 君主ト人民ト、同及ヒ國民全体ト共、
代表者ト、同ニアル條件附契約ナリ

II. 政府ト自由

政府ノ觀念ニハ自由侵害ノ危険ヲ包含ス
自由ハ各個人ノ自然権ナリ

III. 君主

立法権ハ最高ニシテ英國憲法上三者ニ屬ス 君主ハ其ノ一ツナリ
君権神授ノ君権無限等ノ觀念ハ道理ニ叶ハサルノミナラス事實上存在
セズ 君主ハ自ら惡ヲナシ得サルカ故ニ行政ニ関シテ大臣ハ其ノ責ニ
任ス

IV. 兩院及ヒ國民

上院ハ立法権ヲ有スル三者中中間ニ位ス 貴族ハ君主ノ勅任スル所
ナルカ故ニ一旦任セラレタル以上ハ君主並ニ國民ニ對シテ独立ノ地位
ヲ占ム

立法権ニ參與スル所ノ第三ノモノハ下院即チ國民ノ代表者ナリ 彼
ツテ下院ハ國民ノ發言所ナリ 故ツテ國民ノ意思ヲ忠實ニ發表スヘキマ
ナリ

第九章

Parliament (ホシユイ)

James Mill, 時、人、時、皇太子ニ侍講セシモノヲ
後日出版セリ 英國ノ Parliament ニ對シテ出シタモノ
ナル 宮廷禮儀ニシテ博學ノ能者ノ士ナリ

君主制ハ最古ニシテ且ツ最も自然ナル國体ナリ 臣民ハ君主ニ對スル
ハ尚神ニ對スルカ如ク之レヲ尊崇シ之レニ服従スヘシ 君主ハ無限ニシ
テ屬スル學ニ對シテ責任ヲ有スルノミ 君主ハ其ノ大権カノ行使ス
ルニ際シテ神法及ヒ人法ニ從ヒ合理的ニ行動セサルヘカラス

然君主ノ行動ノ合理的ナルカ否カハ臣民ノ判断ニ依ラス 臣民ハ其ノ劣等ノ判断力ヲ以テ君主ノ判断力ニ対抗シ得ルモノニアラス 法ハ君主ヲ拘束セス

第十章

Montesquieu

I. 国体

諸国体ハ各々其ノ理由ヲ有シ各々特別ノ境遇ノ下ニ国民ノ幸福ヲ増進スルコトヲ得

A. 民主国

国民ハ主権ヲ有シ投票ニヨリ之レヲ使用ス 各個人ハ自ら之レニ参與セサルヘカラス 人民ハ官吏ヲ選挙シタ 而シテ財産家重キヲナシ借款選挙タルヘシ 民主国ノ根本主義ハ徳義ニアリ 民主国ハ

単ニ小国ニ適ス

B. 貴族国

元老院ハ主権ヲ有シ官吏ハ大ナル権力ヲ有シ暫々変化スヘシ 君主主義ハ折衷 (*Moderation*) ニアリ 貴族ノ統治ヲ専横流レハ数ニ限定セラル、其ハ貴族制ハ衰フルナリ

C. 君主国

君主国トハ法律上一人ノ支配スル国ヲ云フ 君主制ノヨク行ハルニハ中河権力 (貴族) ノ利用ヲ要ス 根本主義ハ名譽ニアリ 即チ各個人各階級ノ名譽ハヨリ統治者ノ権力カ階級ノ名譽ハ及ヒ特權ノ制限ヲ蒙ル無條件的服従ヲ受スルモノハ君主国ニアラスシテ暴君国ナリ

II. 三权分立

政府ノ権力ハ諸種ノ機關ニ分配シ共ニ平均ヲ得セシメ以テ権力ノ濫用ヲ不可ナラシムヘシ

三枚分立ハ英國ニ於テ之レヲ見ル 英國ニ於テハ三枚ノ關係ハ久シク憲法上ノ爭議ヲ惹ク初メテ決然セレダリ 君主ノ拒否權 議會ノ大臣彈劾權 大臣ノ責任 予算ノ每年議決 憲政維持法、人身保護法等ハ三枚ヲ整ノ原則ヲ證明スルモノナリ 三枚ノ權衡上最モ重要ナルハ立法及ヒ行政ノ相互的ノ制衡カ上下兩院ノ關係ニヨリテ一層複雜ナル現象ヲ呈スルニアリ 蓋シ起論上ヨリ見レハ君主ト兩院ト、三枚ノ關係ハ板敷ヲ常トスヘキガ如シト更ニ政治の上ノ趨勢ハ自然ニ三者ノ協力促スモノナリ

II 自然ト社会

氣候其ノ他種々ノ自然的狀態ハ政治、法律ニ影響 スト云フコトヲ得ト然レ、明言シタルコトハ事實ノ基礎トセサル所請自然法思想ノ流行セシ當時ハ彼ノ各マシテ皇カラシムル一特色ナリ

第十一章 J. Rousseau

フロレタリトトノ出ナリ 著者多シ 瑞西ノジコネガワ人 其ノ家族ハ佛ヨリ瑞西ニ移レルモノナリ R. Rousseauニ居タル人ナリ 親ハ時計ノ職工ナリ 自ラハ印刷職工ヲナセリ 名ヲ知ラル、ニ至リシハ幾度論文ニ當選シタリシヨリナリ 親ハ道徳ノ進歩ハ學問技藝ノ進歩ト相伴フイ否ヤ、答ヘテ No. 1 次ヲ *Contrat social* 出セリ *Amsterdam* ニテ出版セリ 傳聞ニ出版スルコトヲ遠慮セシタメナリ *Emile, Confession* 等、著存アリ 天才ナルモノナレトモ人間トシテハ内海トラス 飛保ナリキ 小説ヲシキ所ノ欠セサリシ人ナリ ジコネーアノ湖水ニハ尺鳥ナルアリ *French Revolution* カ進歩 R. ニヨルト云フハ少ナレ 大ナク見解ヲシメノカ

學說

I. 社会契約

政治的及び社会的、不平等ノ状態ヲ維持スル學說ハ彼、排斥セル所ナリ。然レニ彼モ亦社会ト政府トヲ人共ニ欠クヘカラムノトアリシテ其ノ存在ヲ合理的ニ説明セント試ミタリ

其ノ説ハ一人カ他人ヲ支配スルハ合意ニヨルモノニアラサレハ合理的基礎ヲ欠ク人カ自ラ其ノ自由ヲ制限シ权力者ヲ戴クハ人カ集リテ社会ヲ形成スル所ノ契約ヲナセルカタメナリ。一実事ニ基キテスラ居ルノニアラスシテ abstract ニ云フテ居ルモノナリ。結論ハ

Stoffs ト同様ナリ

斯ク説明セスハ理解スルコトヲ得ストセリ。凡ハ事實アリト云ヒシニアラス。斯ク解説シヤウト云フタルノミ

各個人ハ其全権カヲ一般ノ意思ニ各自己ハ全体ノ不可分的一部分トシ

テ存在スルモノナリ。然シテ初メテ一方ニハ国家ノ主権カカ存在シ他方ニハ人民、市民、臣民カ存在スト

各個人ハ何レモ皆其ノ全権利ヲ社会ニ譲リタルカ故ニ各個人ハ平等ナリ

各個人ハ社会全体ノタメニ自己ヲ犠牲ニセシモノナルカ故ニ何人、タメニスルモ自己ヲ犠牲トスルコトナシ

各個人ハ自己、社会ニ譲リタルト同等ノ权利ヲ社会ノ他ノモノニ対シテ獲得セルカ故ニ其ノ得ル所ハ失フ所ト相等シ。只自己ノ尚保有スル所ノ权利ヲ防禦センカ故ニ一層力ナル権限ヲ得ルナリ

此ノ論ハ矛盾アリ

II. 主権

主権ノ觀念ヲ Bodin, Hobbes 等、如キ專制君主論者、學

述シタルニ対シ *Hobbes, Montesquieu* 如キ民権

論者ヲ以テ學理上不必要トナシ實際上人民ノ自由ニ危険トナシ凡ハ

此ノ双論ヲ謂フモノト試ミタルモノナリ

Locke ニ云スル所、主権ノ決定ヲ基トシテロックニ云スル民権論ニ到着セリ。主権論、自身ニ社会契約主権ニ同スル同義ヲ解決ス。社会契約ニヨリテ生シタル政治社会其ノモノカ唯一ノ主権ニヨラス。各人ハ任意的ニ社会契約ニヨリテ其ノ全権ヲ社会ニ譲リ各個人、*Wille* トナリ主権ハ譲渡スヲ得ス。何故トナレハ *Wille* ト、約束ニヨリテ約束セラレサレハ *Wille* 、約束カ無条件、約束ヲ受ケルト必フ約束ハ存在シ得スト又フコトナリ。ヨリテ主権ハ譲渡スヲ得ス。主権ハ分割シ得ス。立法、司法等ノ區別ハ政務執行上、區別ニ正当ナリ。然レトモ人民ノ判断ヲ停ニ正当ナリト云ヒ得シ。ハ故、*Wille* ハ主権ナレハソレハ正当ナリ。然ルニ一己又ハ自己ノ利害ヨリ断言スルヤハ不正當トナル。然シ人民ハ正当ナルモノナル故一故、*Wille* フモ得ス。

主権ハ無制限ナリト云フ。然レトモ一故、安寧幸福ニ關係ナクシテ

存シ得ス。換言スレハ純然タル個人の利害ノ範圍ニ限入シ得ス。此ノ美ニ矛盾ス。

II. 國家ト政府

國家ハ社会契約ニヨリテ發生シタル社会全体ニシテ一故、*Wille* トシテ主権ヲ有スルモノ。政府ハ主権者、*Wille* フ行ハンカクメニ主権者、持掌シタル一個人又ハ団体ナリ。政府ハ契約ニヨリテ發生セシメテ主権者、命令ニヨツテ發生ス。

第十二章 Blackstone

B. *Montesquieu*

研究シテ觀ミテ英國、政治ヲ研究セリ。彼ハ自然法の概念ニ基テリ。十八世紀ノ產物ナリ。彼ハ政治的自由由ハ英國ニ於テ完全ナル實現ヲ見ルトナセリ。而シテ政治的自由ヲ立法

行政ト、關係ヲ説キ国会ハ君主及ヒ上下兩院ヨリ成立シ居ルモノトセリ
 君主ノ立憲故、性質ハ以テ *Veto* ナリト解シタリ 拒否的ナリトハ君
 主カ主權ヲ有スルコトハ国会ト共ニ有スルコトヲハ国会ノ一分子ナリト
 云フ (*Ring and Parliament*) 上下兩院カサセントスル
 コトヲ拒否スルノ故ヲ有スルノシニテ君主ノ職スルコトヲ *Active*
 ニナサシメ得ルト云フニアラス

第十三章 *Burke*

學說

I. 君權無限思想、排斥ヲ爲ヘタリ 君主ハ政黨ヲ *Highly* シ任
 意ニ何人ヲシテ内閣ヲ組織セシメ得ヘシト、説ハ何等ノ法律、明文ニ

收斂スルコトナシト改ニ憲法ノ精神ニ反ス 君主ハ英、大權ヲ行フヲ
 公共ノ福利ヲ増進スヘシ 故ニ内閣ハ人民ニ無關係ナル人ヲシテ組織
 セシムヘカラス

今日ノ下院ハ國民ノ信任ヨリモ宮廷ノ信任ヲ一層重ニスルモノナリ
 故ニ國民ハ發起シテ下院ヲ監督シテ政黨内閣ヲ復興セサルヘカラス
 然ラサレハ正制ニ陥ル危険アリ

II. 憲法上ノ保守主義

彼ハ国会絶続期間、短縮選舉權ノ拡張、選挙区ノ平等、補選選挙区
 ノ停止等ニ反対セリ 憲法ヒニツイテハ保守主義者ナリシカ故ナリ
 行政上ノ改良ヲ説クヲ得タリ

II. 彼ノ保守主義ノ根本思想

- a. 文明社会ノ性質上政治的ノ急進的改造ハナシ能ハス
- b. 人英ハ政治的ナルト同時ニ道德的、宗教的ニシテ保守的ナルカ故
 ニ急進的改造ハ企ツコト可ナラス

IV. 民権思想、無限ナルコト、反對

人民ナル統一の觀念ハ人爲的ナリ 過半数、優勝权ヲ亦人爲的ニシテ便宜問題タルニ過キス

V. 道徳、得策ト、区別

英國々會ハ植民地ニ対シテ課税权ヲ用ス 然シ英人ハ正義、便宜及ヒ人性ニ反シテ決ヒツ、アリ 抽象的權利ノタメニ英王國カ分裂ヲ招キツ、アリ

第十四章 佛革命前後ノ歐ノ思想

十八世紀、後半ヲ西歐ハ佛國ヲ中心トシテ政治的、社会的ノ改革論盛ニシテ概シテ樂觀的ナリ 自然、道徳、自由、標語ヲ以テ諸々、弊害ノ一掃ヲ期セリ

英國、佛國、伊國等然リ 現存ノ弊害ニハ不満カ多カリシカ之レハ自然ニカヘレハ自ら消スルナリト考ヘ痛クシ 當時ノ識者ハ樂觀セザリシカ又樂觀セザリヤ

Montesquieu, Rousseau 以概論者ノ意見ハ種々異ナレルニ當時ノ社会ハ舊政ニ命運ハ人共ノ要求ニ違ハストノ感觸ニ要ツ

テ小同シモ二人ニ共鳴シ居レリ 天國ノ救文及ヒ佛革命ハ十八世紀ノ中頃、哲學ノ主義セル政治的階級ヲ相当ニ實現セリ 而シテ諸弊害、按序ト共ニ等シヤ弊害ノ出シタルニ

アリ 佛國ノ革命、失敗、佛國ノ五政權者ト共ニ思想上ニ於ケル保守説、反動説カ勢力ヲ得ルニ至レリ 國家ノ基礎ヲ人ノ *Will* ニホムレハ民権説ニ反對スル説流行セリ

★レヲ大列スレハト *classes* ヲ導着ス 八 歴史

- 2. 哲学派 (一般ノ哲学ノ意味ヨリ狭シ)
- 3. 神学派 (人权ニ対シテ)
- 4. 私权派

I. 歴史派

此、派ハ国家ヲ以テ *historical precept* トナシ
 之レヲ以テ国家ヲ制約ニ依リタルモノト云フニ反對シ一時代ノ左右シ
 得ヘカラサルコトヲ主張シ *Systematic* ニ述ハテ居ル *Le-
 wiging* 曰ク 法律ハ人ノ *Will*、任意、創作物ニアラス 成
 長物ナリ 國民ト共ニ成長シ来リ國家ハ國民生活ノ最高發見ナリ 立
 法者ノ事業ハ新法ヲ編纂スルニアラスシテ旧法ヲ國民ノ程度ニ應シテ
 卒業スルタケナリ 法ヲ形成セル努力ハ國民ナリ 國家ハ無限ナル國
 民団体ノ有機的団体ナリ *Leuwiging* ハ迅速、法共編纂、議論
 ニ反對セルナリ 而シテ遂ニ其ノ主張スル所ハ入レテレケリ

II. 哲学派

Hegel, Kant

11. 法律学ノ進歩ヲ以テ社会ノ改良ヲ企テタリ
 12. 現状ノ不滿ナル原因ニツイテハ編纂論者ノ主張スルカ如ク其ノ目
 的ヲ法律ヲ以テ達セラルトセシテ各個人ノ思想上ニ於ケル法律
 思想ノ發達ニアラサルヘカラストスヘシト云ヘリ

Kant ハ形式上ニ於ケル契約論者ナリ 彼、國家契約ハ各個人ノ
 自由意志ニ出テスシテ理性、強制ニ出テス 結局國家ノ基礎ハ人ノ意
 思ニアラス

Hegel ハ國家精神ヲ *center* トシテ意マ各個人ノ意思
 ヲ見スシテ絶対的ナル所謂世界の理性ヲ以テ説明セリ 彼ハ *Ran-
 Adam* カ國家ノ意思ヲ論シタルコトヲ賞讃セルカ此ノ意思ハ絶対
 的ナル意思ト唱ヘテ居ル 彼ハ個人カ個人トシテ *person* ナリトシテ
 國家ヲ万能視セリ 古今ノ制度ハ皆國家發達上ノ必要ノ形式ニシテ只
 立憲君主制ハ最近ノ形式ニシテ且ツ最高ノモノナリト

III. 神权说

此、神、人ハ国家ノ根柢ヲ神ニ帰スルノ中世宗教的思想ヲ有
ニタリ 此ノ思想タルヤ人民、武勇タリ得ナルニテト重キ當時ハ
主トシテ君主專制主義ノ用ニ使セラレタリ 神学ニ神权说
、神ニ旺ナルヲ見タリ

Joseph Maistre 神、神权说ト不可分ナリ 彼ハ革命
说ヲ以テ人間ノ理性ノ力ヲ過度ニナルモノナリト國家ハ人智ノ及ハ
サル神权ノ実アリ 憲法、根本ハ成文憲法以テ存在セリ 憲法ノ
ハ成文法ノ多キ程多キ 故ハ學者ニテ文書家ナリ 神国ニ斯カル
モノ多シ

Ronald (著人) 神ハ Ruler 一モノハ神論ヲ以テ
ancient logic 神權ヲナセリ 神权思想ノ見地ニ立ツテ
革命说ヲ以テ神权主義ヲシテシテス無神論ナリトシテ攻撃セル人ナ
リ 英国民ヲシテ文明國中最モ文明、進イテ、憲法上ノ欠点ヲ見ルモ

IV. 私权说

所有限ハ國家ヨリ来ラス 國家カ所有限ト称スルモノナリ 主权ハ
其ノ起源性質、範圍等ニ於テ所有限ト相違スルカ國章ハ主权者ノ私事
ナリ 主权ハ君主ノ私權ナリ

Rodriat Keller 彼ハ從來ノ政治学說ハ自然の平等
ハ私成人权說ニヨリテ啓蒙セシメタリトシテ而モ彼カ斯カル自然ノ根
拠トセシカ彼ノ自然ノ不平等のナリ 人类社会ト一方ニ支配ヨリ地方
ニ服従アリ 主权ハ事實問題ニシテ道德問題ニアラス 主权者ノ行為
ハ法律上何人モ責メ得ス 又道德上ノ天罰アル、ミ 人ハ貧富ノ差ニ
ヨリ独立ノ程度ヲ異ニス 君主ハ最も富ム故ニ命令ス 服従セス 君
主ハ宣戰講和ノ權ヲ有ス 何トナレハ其ノ所有限ヲ防禦スルノ權ヲ有
セハナリ

革命ノ說

- 17) 國教カナキモ人々ハ平等ナリシナリ
 - 12) 凡テノ人ノ権利カ不安ナリ
 - 13) 共同ノ安全ヲ計ルタメニ一人ヨリ多ク多クノ人ニ権利ヲ讓セリ
 - 14) 斯クノ如クシテ國家ヲ造ツテ初メテ安全ナルヲ得
 - 11) 12) 13) 14) ハ佛國革命ニ反對シテ記リタルモノナルモ何レモ余リ極端ニハ非ラサリシナリ
- 佛ニ於テ王政復古ノ後革命前ノ旧時代ニ属スルゴトハ聖論上、實際上共ニ不可能ニシテ折衷カ唯一ノ道ナリシ故ニ憲章モ此ノ主意ニ依リ立憲君主制トナレモ急推ハ民権モ共ニ制限セラレ絶対無限カ存在ヲ政治上見ス 此ノ所ニ於テ且ツテ君主專制時代ニ於テ及ヒ革命時代ニ於テ共ニ等シク主權ノ絶対説ニ馴レテ居テ佛國民ハ新クナル解放ノ主權ニ加フル必要ヲ生シタリ 抽象的主權説ノ發生ハ此ノ必要ニ應ジタリ 此ノ説ニ依レハ主權ハ君主ニモ人民ニモ帰セス 人類ヲ超越シタル所ノ抽象的、道理スハ正義ニ帰ストセリ

之レヲ主張シタル人々ノ内式三人ヲ述ヘシモ今

1. *Contract*

真ノ主權ハ正義ニ帰シ無制限ヲ有スルカ實際ノ政治上ノ權力ハ最高權ト云モ個人ノ自由ノ制限ヲ受ケハ此ノ自由ヲ壓迫セサルカメニ制限ノ一方ニ集中スルヲ不可トナシ從來ノ三權分立ノ主意ヲ擴張シ此ノ三權ノ他ニ其ノ上ニ為權カアル 此ノ為權(主權)ハ中和權ニシテ他ノ三權ノ權衡ヲ保テ以テ立憲政治ノ一方ニ偏傾スルヲ防ケトス

一八三〇年以後佛國ニ於ケル政治學說ハ大体ニ於テ人民ヲ重ンスルカ專ニ人民ト云フヨリモ國民ヲ一體ト見做シテ各時代ノ人民ノ意思ヨリハ所謂動的ニ理性(道理)ヲ重ンセリ 一般人民ノ專横ニ流ル、コトヲ恐ル、ノ有様ナリキ 而シテ政治スハ國家ノ研究ハ政式論、法律論、以外ニ急キ政治的、社会的ノ觀察ニ進ミツ、アリ

2. *Guizot* 彼ハ *Constant* ト同シ主權觀念ヲ寧ク排弁セリ 彼ノ説ハ主權ニ意義アリトセハ一人ノ意思カ他人ノ意思ヲ絶

対ニ支配スルコトナク之レ即チ專制ニ外ナラス 而シテ正史ハ凡テ
 ノ社会ハ之レニ反抗セルコトヲ物語ル 政治的義務ノ最終ノ基礎ハ
 意思ニアラスシテ各個人ノ個人タル正義及ヒ道徳ナラサルヘシラス
 代議制ノ目的ハ如何ナル力カト云モ万能タルヲ稱サルニ充分ナル構
 束ヲ設ケルニアリ 最高権ト云モ專制ヲ斷絶セシテ道徳及ヒ正義
 ノ範圍内ニ於テ行動スヘキ組織ヲ設ケヘシ 政治ノ技術ト自由ヲ保
 ツ秘策トハ種々、权力ノ平均ヲ得セシムルニアリ

3. *Comte*. 彼ハ人英精神ノ發達ノ順序、學向進歩ノ階段ヲ下ノ
 三ツトナス

a. 神學的

b. *metaphysical*.

c. *Scientific (positive)*

自然法、社会契約、英文憲法、三权分立等ハ旧秩序ヲ打破スルニ
 有用ナル価値ヲ有スルニ新秩序ニ於テハ無価値ナルナリ

前時代ニ於ケル封建的強斷(專制主義)ハ一層不合理ナリ 進歩ノ
 方内ハ人英、及フ所ニアラス 只英ノ前進ノ程度ハ宿敵ノ無敵ノ現々
 ノ原因ニヨリテ左右セラル 社会学ハ二分カレ一ツハ靜的社会学他ハ
 動的社会学トス 前者ハ主トシテ秩序ヲ説キ後者ハ進歩ヲ説ク 進歩
 ハ秩序ノ發達ナリ 秩序ハ社会機能ノ活動ノタメニ社会諸力ノ調和的
 組織ナリ

4. *Jacquerilla* (1805-1859) *Positive*

以外ニ於テ事實ノ觀察ニ基キ政治ノ研究ヲ試ミケリ 彼ハ當時ノ政治
 學者ノ概シテ革命的風潮若シクハ民主的制度ニ賛成スルケ反對スルケ
 ニ急ニシテ冷靜ニ之レヲ觀察スルモ、少ナキヲ嘆キ活タリ 彼ハ殊ニ
 米國ヲ研究セリ 而シテ米國ニ於テ英文憲法ノ内外ノ基礎タル諸制
 民主制、專制ニ附ル弊害ノ寛和ヲ示セリ
 彼ハ民主政治ノ長短ヲ下ノ如ク分ツ

- 11) 幸福、増進
- 12) 教育、普及
- 13) 社交上、進歩
- 14) 人類、愉快ニ対スル同情
- 15) 活動、増加

短所

- 17) 法律、鞏固ナラサルコト
- 12) 治者、品位、下落（価値、下落）
- 13) 軍備ニ充ル
- 14) 物質的繁榮、慾望カ過度ニ流ル
- 15) 抑圧ニ陥入り易シ
- 5) トレードミー（改訂現代、政治学說中、論文）

第十五章 國家有機體說

社会契約說、有機體說、結合ハ國家觀念ヲ契約說ヨリ有機體說ニ進ム是
 來時期ヲ示ス（*Philipp Barter*）、十九世紀、有機體說ヲ三分シ得、純
 正哲學的、心理的及ヒ生物學的、三ツトナス

純正哲學的ニ於テハ軍ニ只一般的、抽象的ニ國家ヲ有機體ト説ケリ
 敢テ之レヲ普通、有機體中ニハ分共セズ、又國家、作用ハ生物ト精感ニ
 比較セズ、彼、二者ハ一層具體的ニ積極的ニ國家有機體說ヲ述ヘタリ
 即チ心理的、モ、ハ高等有機體、心理的方面ヲ主トシテ國家ヲ論シ生物
 的、モ、ハ普通有機體、構成及ヒ活動ニヨリ國家ヲ解説セリ

十九世紀、中頃或ル哲學者ハ國家ヲ倫理的有機體ト説明セリ、此、有
 機體トハ哲學的意味ニシテ倫理的トハ各個人タル分子カ自覺ト自由意思
 トヲ有スルモノヲ名ツケタリ

心理的説ハ Welecutk ハ政治上、発達時期、一人ハ生活時
 期ニ比較シ一人ハ生活ヲ見テ 前者ヲ推測セリ *St. Rahnwald*
 ハ人災ノ精神、根本的諸勢ヲナルミ、ヲ説キ其ノ人々、如何ノ時期ニ
 リ變化スル法則ヲ示シコ、法則ヲ正穴上ノ解次ニ適用シテ居ル 此ノ請
 カノ向ニ人生ノ時期、差ニヨリ勝敗ヲ異ニストナシ此ノ時期ヲ國民の心
 理ニ推論シタル結果ヲ彼ノ所謂政覺論ナリ 又ハ *Geitke* ハ國家人
 格ノ法律上ノ研究ニ貢獻セリ 而シテ団体ニ國家ノ人格觀念ハ独立ニ於
 テハ實在的ニシテ羅馬法ニ於ケル擬制のナラス 団体人格ハ個人々格ヨ
 ヲリ成立シエトラ分子トセル生活の団体ナリ 分子ノ生活ト意思トハ必
 別スヘキ實在的ナル独立ナル生活及ヒ意思ヲ有ス
 生物的説トハ *Blumthal* ニ於テ國家有機体説ハ其ノ頂
 ニ達シタリ 凡ハ國家體説ヲセリトセリ 其ノ終リノ三ツノ有機体説ヲ
 挙ク 彼ハ凡テ、有機体ニ共通ナル性質ヲ三ツ挙ク
 a. 有取及ヒ無取ノ兩要素結合

b. 一ツノ有機体ヲ組織セリ 各分子ハ各々ノ特別ノ性質ヲ有シ以テ
 全体ノ需要ニ應ス

c. 内部ヨリスル発達ト外部ヨリ來ル生長トヲ合セ有スル
 國家ハ道德的及ヒ精神的有機体ナリシカ故ニ高等ナル 國民ノ恩惠ト
 感情トヲ現ハス大因ナリ 在穴ハ國家ニ固有ナル特別ノ人格アルコトヲ
 示シ國家ハ男性ナリ 宗教団体ハ國家ニアラス 故ニ男性ニヨリテ表
 出ス 人災ハ凡テ男性ヲ女性ナリ 國家ハ人災ノ如シ 故ニ同時ニ男
 性且ツ女性ヲ得ス 男子ハ國章ニ參與シ其ノ固有性ヲ表現シ 女子ハ
 自然ニエレヲ嫌フ 故ニ女子ノ参政ハ不可ナリ 又 *Skinner* ハ
 進化説ヲ社會ニ應用シ社會ノ有機性ヲ詳細ニ説ケリ 其ノ要典ハ下ノ如
 シ

社會ハ普通ノ有機体ト共通ノ性質ヲ多量ニ有ス 即ケ共ニ生涯期ヲ通
 シテ生長シ生長ニ伴フテ各部分ノ構造カ分化シエレニ伴フ各部分ノ活動
 ニ分化シコノ相方ノ分化ノ結果トシテ各部分ノ相互ノ向ニ相寄ル關係カ

増加シ生活の分子ヨリナル集合体ハ其ノ分子ニ絶続的ノ死生ヲ起スル分
子ヨリハ遠ニ長命ヲ維持シ居ルモノナリト

彼ハ政治組織ヲ社会ニ於ケル特別ノ有機的制度トナシ種々ノ分析的説
明ヲ試ミ居ル 彼ハ國家ノニツク作用アリトナシ其ノ一ハ外來ノ襲撃ニ
對スル防禦 其ノ二ハ國家内部ノ各個人間ニ於ケル侵害ヲ予防スルニ
アリ 此ノ二作用ノ外ニ國家ノ其ノ活動範圍ノ拡張スル社会的有機体ノ自
然ノ進化ヲ防害スル

第十六章 J. Bentham & etc.

Utilitarianism 代表者ナリ 此ノ利己主義ハ尚紙ヨ
リ以前ニ學者ノマヒシコトモアリ サレトモ英國ニ於ケル如ク流行シタ
ルハナシ

利己主義ハ自然法説ニ就テ起ソタト云ハル 十九世紀ノ新ニ
新論ハ新ニヤ根拠ヲ要求シテ Bentham 等々其ノ特別説ニ此
要求ニ應ジタリト云フヲ得 此ノ學説ハ成長的ト云ヒ得 サレトモ此ノ諸
突ハ共通ナリ

- 1. 合理的原則ニヨリテ人等生活ノ改良ヲナスコト
- 2. 國家活動ニヨリテ一般人民ノ内上ヲ計リ實際的・改革的ナル最大
多数ノ最大幸福ヲ根拠トスル

現時ノ法律ハ現時ノ必要ニ應ジテ現代ノ立法者ノ制定スヘキモノナリ
唯一ノ標準ハ最大多数ノ最大幸福ナリ 此ノ幸福ニ貢獻スルナラハ千年
來ノ慣習又ハ原則ハ一朝ニシテ撤廃スルモ不可ナリ 又人ノ考ヘザリシ
慣習又ハ原則ノ法典又可ナリ 契約説ハ凡テ非ナリ 政治的基礎トナス
ニ足ラス 人カ法ト政府トニ服従スル最終ノ理由ハ祖先ノ契約ニアラス
シテ自己等ノ利益ノためトナリ 政府ノ存在ヲソノ下ニ生活スルモノハ
止レニヨリテ其ノ幸福ハ増進スルコトヲ得ルト云フ 信念ノ有スルカタ
九一

メナリ 國家、特徴ハ軍ニ服従、習慣ニアラス 法ト命令ノ形式ニ於テ
ル *Will*、表示ナリ 故ニ自然ノ道理ヲ正義等ハ法、作り得ス
然レテ國家ニ於ケル最高権利タルヲ得ス 軍ニ人、*Will*ノミカ最

高トナリ得
彼ハ *Bentham*、弟子也 彼ハ *Bentham*、正義ヲ法學

ノ方面ニ於テ一層精強ニ説キタリ 彼、研究法ハ廣汎的ナリ 彼ハ法

(*Law*)ヲ成法ニ依リタリ 法ノ原理ヲ論シテ *sovereignty*

ヲ説キ主権ヲ以テ最高権トセルカ法、範圍ニ限リタリ 社会ニ於テハ其

レ以外ノ諸勢力ノ存スルコトヲ認メテ彼ハ政治上ニ於テ自由ノ極ヲ返重

スルコトヲ不可ナリトシテ政治的、私人的、自由ノ極ハ政治的スハ法律

的拘束ヲ出ラス 政府存在ノ目的ヲ達スルカタメニ何レカ(自由カ拘束

カ)一層有用ナルカ、其ノ何ヲ定ムルモノナリ 此ノ目的ハ人榮ノ幸福

ノ最大、増進ナルコトニ存ス 人榮ノ全体ノ幸福ハ人榮ノ分ル、各社会

ノ幸福ノ總額ニシテ各社会ノ幸福ハ其ノ社会ヲ構成スル所ノ各個人

幸福ノ總額ナリ

J. S. Mill

彼ハ大抵ニ於テ彼ノ父ノ説ヲ繼承セルカ諸種ノ實ニ於テ多少ノ變化ヲ

示シ彼等ノ *Bentham* 主義、既ニ述キ去リタルコトヲ承セリ

彼ハ自由ヲ以テ畢竟ナル各個人ノ行動ノ自由トセシテ一層内容ノ異ナ

ルモノト解シス *utility*、中ニ高等ナル感情ヲ含ムコトヲ明ニセ

又彼ハ憲政ヲ以テ軍ニ人民ニ利害上ニ於テ必要ナルノミナラス又各個人

ノ精神的発達ノ必要ナリトナセリ 彼ハ英國ノ思想カ巧利主義ヨリ集

産主義 (*Collectivism*)ニ對セル過度期ヲ示シ居レリ

晩年ニ *Socialistic*トナル 而シテ其ニ *Socialism*

ノ行ハルコトヲ信シ居ラス 英國ノ下層社会ニテハ未ダ十分 *Socialism*

*align*ノ行ハレルニハ至ラズト考ヘシ故ナリ

以上英國ニハ實際的ニ進行スルモノニシテ詳細ハ小野塚英國ノ社会政

九三

東ヲ見ヨ

彼ハ政治思想上ニ於テ *abolitionism* ヲ非難シ政治組織、比
 較性ヲ主張シ *Democracy*、無條件的崇拜ヨリ遠マタリ
 思想ニ於ケル *originality* ヲ苛圧スルコトハ其ニ見ルト與論
 ニ似ルトヲ同ハス共ニ压制、根本ニシテ人英、進歩ニ障害ナリ 最近ノ
 政体ハ主権カ結局団体全体ニ *rest* スルニアリ 換言スレハ各個人
 カ主权的意思、表示ニ參與ニ阻ツ時、シテ公共的運動ニ参加スルニアリ
 此、政体ノ優劣ナル理由ニツアリ
 1. 總テ、事 自己、権利々害ニ關係アル人ニヨリテ最モヨクヤル
 2. 各人、能力ハ使用ニヨリテ最モヨク發達ス
 議會制、黨ハ数多、投票、危険アリ 多数者ノ優勢ノ傾向ニアリ 此
 ノ弊ヲ矯正スルケルニ *Proportional representation* (比例代
 表) 換數、投票、公裁、教育、學達ヲ必要トス

第十七章 社會主義運動

Socialism、思想及ニ運動ニシテ種ノ方面アリ 時々 *Queen*
and politics ナリ 共ニ階級、變化ヲ經テ居ル *social-*
isms 'is industrial revolution' ハ階級ハ
 タル近古各國、共通現象ナリ
 之レヲ大別スレハ三期ニ分テ得

1. *Utopianistic*
 2. *Marxism wissenschaftlich*
 3. *Landysabianic*
- Yarl mess*
Das Kapital, 全部著者ハリーハバウハス

資本論、大部分が現在、社会制度、等ヲ説キ進ミテ必然的理想社会ニ
変化スヘキ請勢カ、活動ヲ説キタリ

現在、*Burgois*、社会(又ハ国家)ハ生活手段カ人ヲ支配シテ
居ル 多数人民ハ隷屬ナレテ労働者ハ食民ト變ス 水ヲ *Kapital-*
ism ハ何々、資本家ヲ直ニ以シ小奴、資本家ハ多数、資本家ヲ圧倒
シ共ニ資本ハ *monopoly* サレ生活ニ対スル拘束トナル

労働者ハ式場ニ於テ共同運動ヲ學ビ遂ニ資本家ニ対スル反撥ヲ發ヘス
目的、タノニ共同スルニ至ル 資本家ハ自ら衰化ヲ振ル 其、倒崩ト食
民階級、勝利トハ避ケルヘカラス 而シテ遂ニ階級、衝突ヲナシテ社会
、福利ノタノニ共同シテ活動スル新社会カ出現スルヨ、新社会ニツイテ
ハ土地、生活手段トカ共同ニシテ *free* ナル各人カ生活手段ハ共
有シテ金団体、組合的労働力、一部分トシテ労働ニ從事ス

此、社会ニ於テハ生活全部ハ社会、生活ニシテ其ハ一部分ハ新ナル
生活ノ手段トシテ社会的ニ存在シ他、部分ハ各個人ノ生存、タノニ消費

セラル 其ノ分配ノ方法ハ社会ノ生活組織、変化 生活者ノ不達ノ程度
ニヨリテ異ル、ト

此、*Marx*、説ハ大体ニ於テ現今、社会主義者ノ奉スル所ヲア
ツテ三ツノ概念ヲ含ム

1. 停止セサルヘカヲサルモノハ *Kapitalism* ナリ
2. 停止ノ方法ハ現ニ活動ニツ、アル所ノ次、ニツノ勢力ヲ増クヘキ
ナリ

a. 資本ノ集中
b. 労働者ノ結合ト階級闘争

3. 建設セラルヘヤマ、ハ資本共有制度ナリ
4 (国家カ色々ノコトヲナサントスル主義ヲ国家社会主義ト云フ
之レニ社会主義者ハ賛成ス 之レハ同主義者ノ手ヲ演ケルカラ
テアル)

労働者ノ社会ハ共同カ最も固キ

労働者中ニ筋肉労働者ト頭、労働者トヲ一所ニスルモノト異
ニスルモノト同ニ依リ時代ニ依リ相違ス 英國ノ最モ進ニテオ

ル Brain worker, physical worker, middle class
階カヨリ好ハレヲオル 後者、方カ強カナリ middle class

also カ国結セシテ居ル 國結ハ國難ナリ也

思想、根柢ハ Hegel 等カ正又ニ對シテ Darwin 等カ生物ニ

對シテ説キタル進化思想ヲ採用シタルヲ只物史觀ニ傾キ且ツ正史的變化

ノ説明カ單純ニ夫シテ居ル實在社会ノ批評ハ鋭クシテヨク弱矣ヲ歎シテ

居ル 同類提供、後ニ之レハ認ム 故、極端説ハ故ハ階級争闘説擁護、

式番ナルカ其ノ根柢ハ薄弱ナルヲ免レス Labourer, Tolmen

Crete = Contributor スルカ唯一ナル根柢ニアラス

故ニ所謂新社会實現、曉ニ於テハ競争、恐レナキ多数、富強階級、意

欲ヲ見各個人、容限カ限害サル、ノ危険アリ

field socialism

Max, socialism = syndicalism

向ニ入ルモノナリ Max, socialism ハ國家ヲ So-

cialism, 國家ニベシトスルモノナルカ、ニ於テ國家ヲ論シテ

居ラス 佛國ヨリ英國ニ入リ英國ニテ盛ナラスシテ伊國ニ入りテリ

國ニテハ Syndicat トハ組合、意ナリ コレハ今日ノ國家ニ反

對スルモノナリ コレハ Phalistic theory of the state

etc

近時ノ英社会ヲ益々複雑ニ難キ Economic social cur-

ture 各方面、結団体トモ其ノ主要ノ度ト時カトヲ加ハツ、ソリ

此、現象ヲ過度ニ重大視シ更ニ主観念ニ理想化シテ國家ノ極端ハ低クシ

テ制定メントスル種々、學説々最近ニ零生シタリ 之レヲ總称シテ ph-

realistic theory of the state ト云フ 此、新説ヲ全部受

取スルトハ尙早ナレニ從來、國家一元説 (monism), 極端的解

釈、又夫ヲ指摘シタル功績及ヒ現代的社會争突ヲ相当ニ説明シタル功績

八大十

國家ハ一元說ヲ可ナリト思フ 其ノ内容ハ大分變リ居ル *Phrealis-*
tic、攻撃スル様ナコトヲ *neglect* シテモラス *moderate*
モナリ *Qualify* スルモ、モナリ 主權、最高トスルコトニ對
シテ英國、發動問題、勞働問題又ハ我カ軍國、如シ

100

政治學史終

大正十一年三月十八日 印刷
大正十一年三月二十日 發行

(小野塚政治學史真附)

發行者

警國太郎

東京市本郷區本郷四丁目四拾參番地

{ 騰寫換寫騰以 }

印刷所

國文社

東京市本郷區本郷四丁目四拾參番地

騰寫版印刷ノ御用命ハ一度弊社へ御下命下サイ。如何ナル
小數ニテモ親切第一ニ。又如何ナル多數ニテモ迅速廉價ニ
請製致シマス。印刷定價表ハ或切手封入御申込下サイ。

本郷四、四參 國文社

14
706

終

